



滋賀県立大学
平成30（2018）年度
講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1110121	英語 A (活性化コース) (人文)	渡 寛法	前期	1
1110122	英語 B (活性化コース) (人文)	渡 寛法	後期	3
1110131	英語 A (活性化コース) (人文)	香山 恵美	前期	5
1110132	英語 B (活性化コース) (人文)	香山 恵美	後期	7
1110141	英語 A (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	9
1110142	英語 B (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	11
1110151	英語 A (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	前期	13
1110152	英語 B (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	後期	15
1110161	英語 A (活性化コース) (人文)	関 初海	前期	17
1110162	英語 B (活性化コース) (人文)	関 初海	後期	19
1110331	英語 A (応用コース) (人文)	Carl John Boland	前期	21
1110332	英語 B (応用コース) (人文)	Carl John Boland	後期	23
1110341	英語 A (応用コース) (人文)	Armando Duarte	前期	25
1110342	英語 B (応用コース) (人文)	Armando Duarte	後期	27
1110351	英語 A (応用コース) (人文)	Ashley Stevens	前期	29
1110352	英語 B (応用コース) (人文)	Ashley Stevens	後期	31
1110361	英語 A (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	前期	33
1110362	英語 B (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	後期	35
1110371	英語 A (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	前期	37
1110372	英語 B (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	後期	39
1110531	英語 A (充実コース) (人文)	西澤 裕一	前期	41
1110532	英語 B (充実コース) (人文)	西澤 裕一	後期	43
1110541	英語 A (充実コース) (人文)	真田 満	前期	45
1110542	英語 B (充実コース) (人文)	真田 満	後期	47
1110551	英語 A (充実コース) (人文)	Armando Duarte	前期	49
1110552	英語 B (充実コース) (人文)	坂本 輝世	後期	51
1110561	英語 A (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	53
1110562	英語 B (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	55
1110571	英語 A (充実コース) (人文)	Carl John Boland	前期	57
1110572	英語 B (充実コース) (人文)	Carl John Boland	後期	59
1110741	英語 A (展開コース) (人文)	神田 眞喜子	前期	61
1110742	英語 B (展開コース) (人文)	神田 眞喜子	後期	63
1110751	英語 A (展開コース) (人文)	渡 寛法	前期	65
1110752	英語 B (展開コース) (人文)	渡 寛法	後期	67
1110761	英語 A (展開コース) (人文)	菰田 真由美	前期	69
1110762	英語 B (展開コース) (人文)	菰田 真由美	後期	71
1110771	英語 A (展開コース) (人文)	渡 寛法	前期	73
1110772	英語 B (展開コース) (人文)	渡 寛法	後期	75
1110781	英語 A (展開コース) (人文)	坂本 輝世	前期	77
1110782	英語 B (展開コース) (人文)	坂本 輝世	後期	79
1130090	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文a)	山本 洋紀	前期	81
1130100	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文b)	亀田 彰喜	前期	83
1130110	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文c)	山本 洋紀	前期	85
1130120	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文d)	山本 洋紀	前期	87
1130200	情報科学概論 (人文b) 亀田 彰喜	後期	89	
1130210	情報科学概論 (人文a) 山本 洋紀	後期	91	
1130220	情報科学概論 (人文c) 山本 洋紀	後期	93	
1130230	情報科学概論 (人文d) 亀田 彰喜	後期	95	
1150350	人間探求学 (人間関係) 学科教員	前期	97	
1150451	川の未来学 村上 修一	前期	99	
1150460	比較住居論 藤木 庸介	前期	101	
1150540	History of Japanese Cinema Carl John Boland	前期	103	
1150550	Patterns in Japanese Culture & Society Carl John Boland	後期	105	
1150560	Model United States of America Benjamin John McCracken	前期	107	
1150570	Model United Nations Benjamin John McCracken	後期	109	
1201980	政治学 望月 詩史	前期	111	
1201990	政治学 (国際政治を含む) 望月 詩史	後期	113	
1203110	法学概論 (国際法を含む) 坂田 雅夫	前期	115	
1400300	カウンセリング論演習/ 松嶋 秀明	前期	117	
1400330	環琵琶湖文化論実習 (人間関係) 学科教員	通年	119	
1400510	教育学概論 杉浦 由香里	前期	121	
1400520	教育観察実習 原 未来	前期実習	123	
1400530	教育心理学 黒田 真由美	前期	125	
1400540	教育制度論 杉浦 由香里	後期	127	
1400550	教育方法の理論と技術/ 木村 裕	前期	129	
1400555	教育方法論 木村 裕	前期	131	
1400610	形成論演習 木村 裕	通年	133	
1400670	現代社会福祉論 中村 好孝	後期	135	
1400710	現場心理学 松嶋 秀明	前期	137	
1400840	行動論演習 細馬 宏通	通年	139	
1400860	高齢者行動論 城 綾実	後期	141	
1400880	コミュニケーション論 細馬 宏通	前期	143	
1400920	産業心理学 谷口 友梨	前期	145	
1400980	質的データ解析論 武田 俊輔	後期	147	
1401040	社会学演習 丸山 真央	通年	149	

1401050	社会学概論	武田 俊輔	前期	・ ・ ・	151
1401060	社会学史	中村 好孝	前期	・ ・ ・	153
1401100	社会心理学(人間関係)	後藤 崇志	後期	・ ・ ・	155
1401110	社会精神医学	久保田 泰考	前期集中	・ ・ ・	157
1401120	社会調査実習(地域文化、人間関係)	塚本 礼仁	通年	・ ・ ・	159
1401125	地域社会調査実習	塚本 礼仁	通年	・ ・ ・	161
1401130	社会調査方法論	大野 光明	後期	・ ・ ・	163
1401140	社会調査論	中井 治郎	前期	・ ・ ・	165
1401340	生涯学習論	原 未来	前期	・ ・ ・	167
1401380	消費生活論	小牧 美江	後期	・ ・ ・	169
1401520	心理・発達・行動学実験演習	細馬 宏通	通年	・ ・ ・	171
1401540	心理学基礎	後藤 崇志	前期	・ ・ ・	173
1401560	生活経営論	山田 歩	後期	・ ・ ・	175
1401570	生活指導論/	原 未来	後期	・ ・ ・	177
1401575	生活と教育	原 未来	後期	・ ・ ・	179
1401710	生活法	山中 稚菜	前期集中	・ ・ ・	181
1401790	組織とネットワークの社会学/	岩館 豊	前期集中	・ ・ ・	183
1401820	卒業研究・論文(人間関係)	学科教員	通年研究	・ ・ ・	185
1401870	地域運動論/	大野 光明	前期	・ ・ ・	187
1401875	社会運動論	大野 光明	前期	・ ・ ・	189
1402240	哲学概論A	鞍田 崇	前期集中	・ ・ ・	191
1402360	統計学基礎	細馬 宏通	前期	・ ・ ・	193
1402400	日本社会論	武田 俊輔	後期	・ ・ ・	195
1402460	人間関係論演習	学科教員	通年	・ ・ ・	197
1402470	人間関係論演習	学科教員	通年	・ ・ ・	199
1402481	人間関係論基礎演習	学科教員	後期	・ ・ ・	201
1402500	人間形成論/	杉浦 由香里	前期	・ ・ ・	203
1402502	人間形成論B	杉浦 由香里	前期	・ ・ ・	205
1402530	人間行動論	細馬 宏通	後期	・ ・ ・	207
1402540	人間文化論A	細馬 宏通	前期	・ ・ ・	209
1402550	人間文化論B	小熊 猛	後期	・ ・ ・	211
1402560	人間文化論C	宮本 雅子	後期	・ ・ ・	213
1402570	認知心理学	上野 有理	前期	・ ・ ・	215
1402609	発達支援論(人間関係)	水野 友有	後期	・ ・ ・	217
1402950	文化社会学	武田 俊輔	後期	・ ・ ・	219
1403000	マーケティング論	山田 歩	後期	・ ・ ・	221
1403100	量的データ解析論	丸山 真央	前期	・ ・ ・	223
1403110	量的データ解析論	岡本 裕介	後期集中	・ ・ ・	225
1403190	臨床心理学	松嶋 秀明	後期	・ ・ ・	227
1403250	地域社会論	丸山 真央	後期	・ ・ ・	229
1600251	教育課程論	木村 裕	後期	・ ・ ・	231
1600390	道德教育論	福井 雅英	前期	・ ・ ・	233

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK) を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキミングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)							担当教員	香山 恵美
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介
第2回	Unit 1	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 2	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 3	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 4	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 5	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 6	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 7	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 8	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 9	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 10	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
担当者から一言		

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 11	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第2回	Unit 12	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 13	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 14	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 15	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 16	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 17	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 18	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 19	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 20	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	問題演習	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
担当者から一言		

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Part1の演習	Unit7~12のPart1
第2回	Unit7	Part2, 3, 6を演習
第3回	Unit7	Part4, 5, 7を演習
第4回	Unit8	Part2, 3, 6を演習
第5回	Unit8	Part4, 5, 7を演習
第6回	Unit9	Part2, 3, 6を演習
第7回	Unit9	Part4, 5, 7を演習
第8回	Unit10	Part2, 3, 6を演習
第9回	Pre-test演習	12月2日のTOEIC受験の予行練習
第10回	Unit10	Part4, 5, 7を演習
第11回	Unit11	Part2, 3, 6を演習
第12回	Unit11	Part4, 5, 7を演習
第13回	Unit12	Part2, 3, 6を演習
第14回	Unit12	Part4, 5, 7を演習
第15回	Unit7~12の復習	Unit7~12の復習

担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度 (授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	英語シナリオで楽しむ美女と野獣		Gakken	9784053046420
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身!	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)							担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画 (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度 (授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	英語シナリオで楽しむ美女と野獣		Gakken	9784053046420
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身!	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画 (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について2回の到達確認テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(20%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2	TOEICテストワードマスターアプローチ(単語熟語集)	松井こずえ他	成美堂	9784791900725
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について2回の到達確認テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(20%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2	TOEICテストワードマスターアプローチ(単語熟語集)	松井こずえ他	成美堂	9784791900725
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term writing test
レポート課題	25	Mid-term speaking test/quiz
上記以外	50	Final Test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Textbook: Living English I - by Karl Hedberg and Peter Mauser (Keystone Press).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term essay project
レポート課題	25	Mid-term essay reading/speaking test
上記以外	50	Final test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Textbook: Living English II - by Karl Hedberg and Peter Mauser (Keystone Press).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/Memory and The Past 1	LE 2 Unit 7 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第2回	Memory and The Past 2	LE 2 Unit 7 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第3回	The Real You 1	LE 2 Unit 8 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第4回	The Real You 2	LE 2 Unit 8 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第5回	Preferences 1	LE 2 Unit 9 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about favorites and preferences.
第6回	Preferences 2	LE 2 Unit 9 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about favorites and preferences.
第7回	Food 1	LE 2 Unit 10 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about food and eating out.
第8回	Food 2	LE 2 Unit 10 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about food and eating out.
第9回	Mid Term Test 1	Students read aloud their essay project to the teacher. Students will also work on unit review exercises.
第10回	Mid Term Test 2	Students read aloud their essay project to the teacher. Students will also work on unit review exercises.
第11回	Sharing Experiences 1	LE 2 Unit 11 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about experiences.
第12回	Sharing Experiences 2	LE 2 Unit 11 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about experiences.
第13回	Future Plans 1	LE 2 Unit 12 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about future plans.
第14回	Future Plans 2	LE 2 Unit 12 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about future plans.
第15回	Course Review/Exam Preparation	Students will complete unit review and exam preparation exercises.

担当者から一言

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	25	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを3回以上欠席すると毎回欠席は採点から3点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will complete weekly speaking homework assignments using their smartphones and Google Drive. Students will receive weekly comments and feedback on their speaking abilities. Writing skills from the previous semester will be used again, and new writing skills will be introduced.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Midterm Presentation: 50% (each speaking objective 25% each; writing objectives 1 & 3 25% each, writing objective 3 50%), in class time week 8. Students will write and present about their summer vacation.
レポート課題	25	Homework: There will be writing and speaking homework on various topics.
上記以外	25	Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを3回以上欠席すると毎回欠席は採点から3点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Homework: Begin writing midterm paper.
第2回	Week 2	Pronunciation practice, using "would".
第3回	Week 3	Interviewing someone.
第4回	Week 4	Midterm practice presentations.
第5回	Week 5	Respond to video media.
第6回	Week 6	Using "after, before, when".
第7回	Week 7	Writing groups/peer feedback.
第8回	Week 8	Midterm presentations.
第9回	Week 9	Cause and effect.
第10回	Week 10	Using "whereas, however".
第11回	Week 11	Respond to video media.
第12回	Week 12	Writing groups/peer feedback. Homework: None.
第13回	Week 13	Final presentation preparation. Homework: Work on final presentation.
第14回	Week 14	Final presentation preparation and practice presentations. Homework: Continue working on final.
第15回	Week 15	Final presentations.

担当者から一言

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語 A (応用コース) (人文)							担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens	
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test and a final writing test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Gordon MacLaren	
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3rd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times. In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the instructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total) Pairs rewrite 75-90% of a 'new' scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Gordon Maclaren	
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars [New Version]		(Drama Works, 2009)	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらにそれらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含まれます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	9784010943007
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	9784010943007
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またTEDの素材を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において、英語を音読し、発言することで弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 に関し、2回小テストを行い、評価の20%とする。 到達目標 と に関しては、授業での発表をもとに、評価の40%とする。この40%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	978-1-305-96504-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	授業の説明 予習の手順等の説明
第2回	Unit 1 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第3回	Unit 1 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第4回	Unit 2 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第5回	Unit 2 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第6回	Unit 3 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第7回	Unit 3 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第8回	1st Quiz Presentation	第一回小テスト 英語で発表
第9回	Unit 4 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第10回	Unit 4 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第11回	Unit 5 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第12回	Unit 5 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第13回	2nd Quiz Presentation	第二回小テスト 英語で発表
第14回	Unit 6 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第15回	Unit 6 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える

担当者から一言

英語辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。また、正確な英文法に注意しながら、論理的な英語を書く力を養う。英語を書くだけでなく、自分の考えをメモ等に頼ることなく発表し、他学生と議論する能力も培う。

到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 に関し、2回小テストを行い、評価の20%とする。 到達目標 と に関しては、授業での発表をもとに、評価の40%とする。この40%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	978-1-305-96504-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

This class will introduce a new problem or aspect of society every week. Students will read authentic English materials about the topic, learn vocabulary, and complete comprehension activities. There will also be homework which will develop the 4 skills of language.

到達目標

Each class will have many activities. Is it important that students bring their textbook, paper, and pencils/pens to class every week.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	20	There will be 4 quizzes in this class, each worth 5% of your final grade.
レポート課題	30	There will be 8 writing assignments in this class, each worth 3.75% of your grade.
上記以外	50	Final examination.

Students who miss more than 3 classes will receive a 3% grade penalty for each class after 3 classes. Homework and other late assignments will have a 10%.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Different Perspectives: Understanding Current World Issues	Allen, B., Ichioka, N., Iwamasa, S., Ohno, M.,		978-4-7647-3980-2
2				
3				

There are many difficult vocabulary words in this textbook - be careful!!

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Syllabus review, syllabus quiz; earthquakes and disasters.
第2回	Week 2	Animal rights and animal issues.
第3回	Week 3	Humans and animals.
第4回	Week 4	War and arts.
第5回	Week 5	Nationality and citizenship.
第6回	Week 6	Education and women.
第7回	Week 7	Gender issues and identity.
第8回	Week 8	Guns and society.
第9回	Week 9	Video games and violence.
第10回	Week 10	Social media.
第11回	Week 11	Families and society.
第12回	Week 12	Environmental protection.
第13回	Week 13	Foods and crops.
第14回	Week 14	Child labor.
第15回	Week 15	Religious and supernatural beliefs.

担当者から一言		
---------	--	--

This class will be very challenging for you, but I am here to help you in any way. Please email me or talk to me before/after class about anything. I'm excited to meet you all!

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、リーディングを中心に英語の全般的な運用力を総合的に高めることを目的とする。テキストは、文化、社会、テクノロジー、環境、経済の5つの分野にわたるトピックを扱ったもので、これを用いて、現代社会のさまざまな側面について、英語で読み、考え、発表する活動に取り組んでもらいたい。また、毎週必ずテキストの音源等を聞いてリスニング・ジャーナルに記録し、クラスでのアクティビティに積極的に参加することで、リスニングとスピーキングの力も伸ばしていきたい。期末課題として、小グループ単位でテキストの内容についての英語プレゼンテーションを行う。

到達目標

- (1) 必要に応じて辞書を使いながら、英文の内容を確実に理解する力を養う。
- (2) 英語の音とリズムに慣れ、リスニング力を向上させる。
- (3) 英語で読んだり調べたりしたトピックについて、その内容を人に伝えるスピーキング力を向上させる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標(1)(3)について、期末プレゼンテーションによって評価する。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標(1)(2)(3)について、予習(15%)とクイズ(30%)によって評価する。 到達目標(2)について、リスニング・ジャーナルの提出(15%)によって評価する。 到達目標(3)について、授業への参加度(10%)によって評価する。

正当な理由がなく全クラスの1/3以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。英語を聞いたり読んだりする活動に、自宅や通学時にも積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Understanding Our New Challenges	Dave Rear, 杉藤久志	成美堂	9784791934263
2				
3				

英和辞典(電子辞書または紙の辞書)と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、TOEIC問題とドラマ (Full House) を使い演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト (筆記式) と授業の最後にグループ単位でのドラマのスク립トを作る課題の提出があります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます (出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK2	吉塚弘, Bill Benfield	成美堂	978-4-7919-1093-9
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

3 回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず 1 回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、TOEIC問題とドラマ (Full House) を使い演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト (筆記式) と授業の最後にグループ単位でのドラマのスク립トを作る課題の提出があります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます (出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK2	吉塚弘, Bill Benfield	成美堂	978-4-7919-1093-9
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

3回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習とFull House15	前期の復習とFull House15を演習
第2回	Unit13とFull House16	Unit13とFull House16を演習
第3回	Unit14とFull House17	Unit14とFull House17を演習
第4回	Unit15とFull House18	Unit15とFull House18を演習
第5回	Unit16とFull House19	Unit16とFull House19を演習
第6回	Unit17とFull House20	Unit17とFull House20を演習
第7回	Unit18とFull House21	Unit18とFull House21を演習
第8回	Pre-test	TOEICの予行練習
第9回	Unit19とFull House22	Unit19とFull House22を演習
第10回	Unit20とFull House23	Unit20とFull House23を演習
第11回	Unit21とFull House24	Unit21とFull House24を演習
第12回	Unit22とFull House25	Unit22とFull House25を演習
第13回	Unit23とFull House26	Unit23とFull House26を演習
第14回	Unit24とFull House27	Unit24とFull House27を演習
第15回	Unit13～24の復習とFull House28	Unit13～24の復習とFull House28を演習

担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語 A (充実コース) (人文)							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

This social studies themed course focuses on building vocabulary as well as improving reading comprehension and listening skills. This approach will have clear benefits for those students taking the TOEIC test. Students will also work on their paragraph/essay writing skills and receive coaching from the tutor. In class, the students will work in pairs and small groups on discussion exercises related to course text topics. Students will also be introduced to a number of self-study techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
 Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
 Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term essay speaking/reading test
レポート課題	25	Mid-term essay writing
上記以外	50	Final Test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Text: Hot Topics Japan I - Stephanie Alexander [Compass Publishing].

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

This social studies themed course focuses on building vocabulary as well as improving reading comprehension and listening skills. This approach will have clear benefits for those students taking the TOEIC test. Students will also work on their paragraph/essay writing skills and receive coaching from the tutor. In class, the students will work in pairs and small groups on discussion exercises related to course text topics. Students will also be introduced to a number of self-study techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
 Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
 Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term essay speaking/reading test
レポート課題	25	Mid-term essay writing
上記以外	50	Final Test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Text: Hot Topics Japan II - Stephanie Alexander [Compass Publishing].

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	神田 真喜子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業では、4技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげる活動もします。

到達目標

- (1) リスニング力を向上させる
(2) リーディング力を向上させる
(3) 語彙力や文法力を向上させる。
(4) 積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)(2)(3)について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(1)(2)(3)について、到達度確認テストを2回行い、30%として評価。 到達目標(2)(3)について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標(4)について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Japan Goes Global	Stuart Gale他	南雲堂	978-4-523-17860-6
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	神田 真喜子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

本授業では、4技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してコミュニケーション活動も行います。

到達目標

- (1) リスニング力を向上させる
(2) リーディング力を向上させる
(3) 語彙力や文法力を向上させる。
(4) 積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目到達目標(1)(2)(3)について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(1)(2)(3)について、到達度確認テストを2回行い、30%として評価。 到達目標(2)(3)について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標(4)について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Japan Goes Global	Stuart Gale他	南雲堂	978-4-523-17860-6
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業は、英語の発音の仕方を学び、TOEICリスニング・セクションのスコアアップを目指します。英語力の基礎は発音力です。なぜ日本人は英語を聞き取れないのか、また逆に、なぜ日本人の話す英語（ジャングリッシュ）は聞き取ってもらえないのか。伝わらないカタカナ発音と通じる英語発音の違いを理解することで、リスニング能力だけでなくスピーキング能力も育成します。授業では、教科書を用いて音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。

到達目標

- (1) 英語発音の特徴を理解し、TOEICレベルのリスニング問題を聞き取れる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『Listening Steps』	米山明日香 / Lindsay Wells 著	金星堂	978-4-7647-4039-6
2				
3				

初回授業では音読のタイムトライアルなどを行うので、スマートフォンを持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

前期に引き続き、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、英語の四技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養う。後期は特に、英語が世界共通語と呼ばれるまでに至った背景的知識を得るため、サブテキストとしてDavid Crystal著 English as a Global Language を参照する。前期同様、受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。リーディングとリスニング問題を軸に、英語でレポートを作成したり（ライティング）、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する（スピーキング）などの課題も随時提示される。

到達目標

- (1) “World Englishes” に関する発展問題に、自らの意見や引用文を用いて解答する
- (2) 世界の旅事情、今後の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する
- (3) 世界の国々の特色について、英語で詳細に説明する

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 (1) について、期末テストを行い、全体の40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 (2) について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標 (3) について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)で評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものは無い。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801
2				
3				

・適宜、授業中にプリント配布する。

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	菰田 真由美	
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

海外旅行や留学などの機会において、私たちは、他の文化について多くを学びます。この授業では、日本人学生の体験を通して、私たちが外国で遭遇しがちなさまざまな問題とその解決法について学びながら、同時にリスニング、スピーキング、リーディング能力の向上を目指します。授業内の小テストで語彙を確認し、ペア・ワークによって会話の練習を行います。さらに、テーマにまつわる文章を聴いて、読み、その内容を理解します。

到達目標

- (1)海外旅行や留学の際、想定されるさまざまな場面で必要な語彙を習得する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付け、音読することができる。
(3)テーマごとに、まとまった内容の文章を聴いて、読み、理解することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標(3)については、期末試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(20%)、到達目標(2)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。

授業を4回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞆に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Communicate Abroad	Simon Cookson, Chihiro Tajima	センゲージ・ラーニング	978-4-86312-277-2
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	菟田 真由美
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

海外旅行や留学などの機会において、私たちは、他の文化について多くを学びます。この授業では、日本人学生の体験を通して、私たちが外国で遭遇しがちなさまざまな問題とその解決法について学びながら、同時にリスニング、スピーキング、リーディング能力の向上を目指します。授業内の小テストで語彙を確認し、ペア・ワークによって会話の練習を行います。さらに、テーマにまつわる文章を聴いて、読み、その内容を理解します。

到達目標

- (1)海外旅行や留学の際、想定されるさまざまな場面で必要な語彙を習得する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付け、音読することができる。
(3)テーマごとに、まとまった内容の文章を聴いて、読み、理解することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標(3)については、期末試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(20%)、到達目標(2)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。

授業を4回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞆に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Communicate Abroad	Simon Cookson, Chihiro Tajima	センゲージ・ラーニング	978-4-86312-277-2
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業は、英語の発音の仕方を学び、TOEICリスニング・セクションのスコアアップを目指します。英語力の基礎は発音力です。なぜ日本人は英語を聞き取れないのか、また逆に、なぜ日本人の話す英語（ジャングリッシュ）は聞き取ってもらえないのか。伝わらないカタカナ発音と通じる英語発音の違いを理解することで、リスニング能力だけでなくスピーキング能力も育成します。授業では、教科書を用いて音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。

到達目標

- (1) 英語発音の特徴を理解し、TOEICレベルのリスニング問題を聞き取れる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『Listening Steps』	米山明日香 / Lindsay Wells 著	金星堂	978-4-7647-4039-6
2				
3				

初回授業では音読のタイムトライアルなどを行うので、スマートフォンを持ってくるください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業で用いるテキストは、「書きたくなる、あるいは書くにふさわしいような話題について」、「聞いたり話したり、という口頭コミュニケーション活動も行いながら」、「クラスメートとアドバイスを交換しながら」、「英語的なパラグラフとして表現する練習をする」ために作られたものである。クラスでは、さまざまなアクティビティーによって、ライティングとスピーキングを中心に英語の運用能力を総合的に高めることを目標とする。また、読むことでの英語のインプットを増やすために、易しい多読用図書を読んでリーディング・ジャーナルに記録していく。課題やクラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) 英語のパラグラフを書く力を養う。
- (2) 多読によって英語を英語のまま読めるようになる。
- (3) 自分が書いた英文を発表する中で、相手に伝わるスピーキング力を身につける。
- (4) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標 (1) について、ライティング課題 (40%) によって評価する。 到達目標 (2) について、リーディング・ジャーナル (20%) によって評価する。 到達目標 (3) について、Oral presentation (20%) によって評価する。

正当な理由がなく全クラスの 1 / 3 以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回、30 分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週 1 回のクラスだけではできません。多読などの自宅学習に積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	構造から学べるパラグラフライティング入門	静 哲人	松柏社	9784881985373
2				
3				

教科書は、必ず初回授業から持ってくる。英和・和英辞典は、電子辞書または紙の辞書を準備しておくこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

英語が苦手だという自覚のある人は、できるだけ早く個人面談に来てください。特別扱いはしませんが、アドバイスと応援をします。

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、リーディングを中心に英語の全般的な運用力を総合的に高めることを目的とする。テキストは、文化、社会、テクノロジー、環境、経済の5つの分野にわたるトピックを扱ったもので、これを用いて、現代社会のさまざまな側面について、英語で読み、考え、発表する活動に取り組んでもらいたい。また、毎週必ずテキストの音源等を聞いてリスニング・ジャーナルに記録し、クラスでのアクティビティに積極的に参加することで、リスニングとスピーキングの力も伸ばしていきたい。期末課題として、小グループ単位でテキストの内容についての英語プレゼンテーションを行う。

到達目標

- (1) 必要に応じて辞書を使いながら、英文の内容を確実に理解する力を養う。
- (2) 英語の音とリズムに慣れ、リスニング力を向上させる。
- (3) 英語で読んだり調べたりしたトピックについて、その内容を人に伝えるスピーキング力を向上させる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標(1)(3)について、期末プレゼンテーションによって評価する。
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標(1)(2)(3)について、予習(15%)、クイズ(25%)、TOEICスコア(10%)によって評価する。 到達目標(2)について、リスニング・ジャーナルの提出(15%)によって評価する。 到達目標(3)について、授業への参加度(10%)によって評価する。

正当な理由がなく全クラスの1/3以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。英語を聞いたり読んだりする活動に、自宅や通学時にも積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Understanding Our New Challenges	Dave Rear, 杉藤久志	成美堂	9784791934263
2				
3				

英和辞典(電子辞書または紙の辞書)と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明 担当ユニットの決定
第2回	Group activities	担当ユニットの内容確認と発表に向けての話し合い English activities
第3回	Unit #1	クイズ テキスト内容の確認と発展
第4回	Unit #2	クイズ テキスト内容の確認と発展
第5回	Unit #3	クイズ テキスト内容の確認と発展
第6回	Unit #4	クイズ テキスト内容の確認と発展
第7回	Unit #5	クイズ テキスト内容の確認と発展
第8回	Mid-term preview	グループ発表の準備状況確認 English activities
第9回	Unit #6	クイズ テキスト内容の確認と発展
第10回	Unit #7	クイズ テキスト内容の確認と発展
第11回	Unit #8	クイズ テキスト内容の確認と発展
第12回	Unit #9	クイズ テキスト内容の確認と発展
第13回	Unit #10	クイズ テキスト内容の確認と発展
第14回	Unit #11	クイズ テキスト内容の確認と発展
第15回	期末プレゼンテーション準備	クイズ、English activities

担当者から一言

専門分野の国際的な研究を理解し、それに基づいて自分の研究を進めるためには、英語の文章を確実に読み取る力が必要です。また、理解した内容をわかりやすく人に伝える力も欠かせません。このクラスで、そのための第一歩を踏み出しましょう！

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウェア
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得
第9回	レポートの基本	レポートと学术论文の概念と論文作成の基本
第10回	情報収集と加工	レポートと学术论文の書式と情報収集と加工の基本
第11回	画像等の処理	レポートと学术论文の書式と画像等の処理の基本
第12回	統計データ処理	レポートと学术论文の書式と統計データ処理の基本
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学术论文の作成のまとめ
第14回	課題の作成	レポート課題の作成
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学术论文発表のまとめ
担当者から一言		

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報科学概論(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論(人文a)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的な手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論(人文c)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的な手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論 (人文c)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ2乗値 統計検定
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習

担当者から一言

講義名	情報科学概論(人文d)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論(人文d)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダ作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ

担当者から一言

講義名	人間探求学(人間関係)							担当教員	学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 / 木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央
講義コード	1150350	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM101								

授業概要

学生自らが人間関係学科での学びを探究し、新しい視点を発想・発見することを支援する。
対話型の少人数学習の機会も設定し、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援する。

到達目標

自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	リアクションペーパー・小テスト(50%) レジュメ作成・ディスカッションへの参加・レポート(50%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストについては、講義中に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書については、講義中に指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	川の未来学							担当教員	村上 修一
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本科目は、専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる、川の問題をとりあげる。まず、国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に、川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で、川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

到達目標

- (1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
- (2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
- (3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標 (1) : ワークシート1 (30%) 到達目標 (2) : ワークシート2 (30%) 到達目標 (3) : ワークシート3 (40%)

ワークシート1, 2, 3は、それぞれ第5, 10, 14回の授業時間内に履修生が記述し、回収される。第6, 11, 15回に解説が行われ、履修生は理解を深める。

授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第十堰日誌	姫野雅義	七つ森書館	978-4822811426
2	吉野川住民投票 市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922
3	再帰的近代の政治社会学 吉野川可動堰問題と民主主義の実験	久保田滋 他	ミネルヴァ書房	978-4623050826

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	比較住居論							担当教員	藤木 庸介
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM1761, 33RED121, 135LAH206								

授業概要

世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。

到達目標

- (1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。
- (2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。
- (3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に挙げた(1)(2)(3)の内容を包含した小テストを2回行い評価する。成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。

やむを得ない事由により小テストを欠席する場合には、必ず事前に申し出ること。
また、当日の急病等によって事前の申し出ができて欠席した場合には、病状に関する診断書を提出すること。
上記以外により小テストを欠席した者は、単位取得を認めない。

授業外学習

教科書、並びに授業で配布されるプリントを復読することが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいがたえる世界の暮らし-今日の居住文化誌	藤木庸介(編)	世界思想社	
2				
3				

教科書は第4回目の授業から使用する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	History of Japanese Cinema							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1150540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

'History of Japanese Cinema' is a culture studies course that examines Japan's world-renowned cinematic output over the last one hundred years. The defining developmental periods and 'golden eras' of Japanese cinema will be examined through the work of major studios, auteur directors, and landmark films. The course will contextualise changes within the film industry and aesthetic developments against the socio-cultural background of particular periods (e.g. post-war/late modern, postmodern).

到達目標

This course aims to:

1. Deliver a comprehensive introductory course on the history of Japanese narrative cinema; one tailored for students who are not film majors.
2. Instruct students on approaches to film analysis as a means to broaden their study of Japanese society and culture.
3. Encourage students to develop a scholarly appreciation of film.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	20	Mid-term paper
レポート課題	40	Presentation
上記以外	40	Final Test

Students are required to complete a film review paper and presentation project. The final test will address key topics and concepts covered in the lectures.

授業外学習

This is a lecture-based course. Due to time limitations, only film clips will be screened in class. Students will be provided with access to lecture materials and readings online.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

No prior film studies knowledge is required. Non-native speakers of English should ideally have a solid intermediate skill level (e.g. TOEFL iBT score of around 70).

履修資格

講義名	Patterns in Japanese Culture & Society							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This introductory Japan studies course sets out to critically examine paradigms that have shaped academic and lay perceptions of Japanese social structures, identity and collective consciousness. The selection of topic domains is intended to underpin a broad based contextual analysis of contemporary social issues facing Japan. Concordantly, this enquiry is supported by an interdisciplinary conceptual framework that draws on salient perspectives from sociology, social psychology and cultural studies. The course adopts a simple unit structure and a lecture / seminar format. Students will be expected to participate actively in seminar discussions.

到達目標

1. To introduce the research principles that define interdisciplinary sociocultural studies.
2. To encourage students to adopt an interdisciplinary perspective towards sociocultural studies of Japan.
3. To stimulate informed debate about contemporary issues affecting Japanese society.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	20	Seminar Participation
レポート課題	40	Essay
上記以外	40	Final Test

Students are required write an essay based on a relevant topic from the course. The final test will require students to answer topic review questions taken from the seminar classes.

授業外学習

教科書				
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	Model United States of America							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America ("USA ") and its unique form of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a senator from one of the 50 states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from the USA.

到達目標

(1) Students will learn about US history and how it impact the current policital environment. (2) Students will learn about the US governmental system and the role political parties play in it. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their expereince.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the US. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	Model United Nations							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.

到達目標

(1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parliamentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their experience.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the world. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	政治学						担当教員	望月 詩史	
講義コード	1201980	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	212PEL301, 235LAH304								

授業概要

本講義では「政治学の世界」をテーマに、「政治」とは何であり、「政治学」とはどのような学問であるのかについて考えていきたい。そして政治学の各分野を取り上げながら、政治現象をどのような観点から分析しているのかについて詳しく見ていく。

政治というと、議員や議事を思い浮かべる人が多い。確かに政治における重要なアクターであることは事実だが、決してそれらの専有物ではない。好むと好まざるとに関わらず、政治は私たちの日常生活と密接不可分の関係にある。そこで政治に係わる時事問題も積極的に取り上げていきたい。

政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。

本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

到達目標

- (1) 「政治」、「政治学」とはどのような現象、学問であるのかを理解することができる。
- (2) 政治現象に対する問題意識を持つことができる。
- (3) 過去と未来への視座を含みながら現在を考えることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	80	到達目標(1)(2)(3)について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	コメントペーパーの内容に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見」をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。なお、取り組み状況次第で、割合を30%に引き上げることも考慮する。

授業外学習

- (1) 授業内容をテキストの該当箇所を読んで復習すること。
- (2) 新聞やニュースに目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	政治学入門	阿部齊	岩波書店	978-4000260015
2	政治学への道案内	高島通敏	講談社	978-4062921107
3	政治学をつかむ	苅部直ほか	有斐閣	978-4641177154

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

前提学力等

履修資格

講義名	政治学（国際政治を含む）							担当教員	望月 詩史
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL305, 235LAH305								

授業概要

本講義では、政治思想と国際政治を取り上げる。
 政治思想では、古代から近代までの各時代を代表する思想家や知識人に焦点を当てながら、主要な政治思想を取り上げる。「主義」という政治概念が頻りに登場するが、できる限り具体的な中身を明らかにしていきたい。なぜならば、その意味内容が時代ごとに変化するのはもちろん、同時代においても相違が見られるからである。
 国際政治では、国内政治との共通点・相違点について考えていきたい。特に後者を明らかにするために、国際政治の成り立ち（歴史）、国際社会における政治現象を分析する枠組み、そして今日的課題（テロリズム、核、環境問題など）を取り上げる。
 これらのテーマの理解度を高めるには、具体的な政治現象と関連付けて考えることが望ましい。したがって、政治に係わる時事問題も取り上げる。
 政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。
 本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

到達目標

- (1) 現在の価値観を前提とせず歴史的に政治思想を理解することができる。
 (2) 国際政治と国内政治の共通点・相違点を理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	到達目標(1)(2)について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	コメントペーパーの「内容」に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見」をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。なお、取り組み状況次第で、割合を30%に引き上げることも考慮する。

授業外学習

- (1) 授業内容をテキストの該当箇所を読んで復習すること。
 (2) 新聞やニュース等に毎日目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国際政治学をつかむ 新版	村田晃嗣ほか	有斐閣	978-4641177222
2	西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	978-4641220010
3	近代日本思想案内	鹿野政直	岩波書店	978-4003500187

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

前提学力等

履修資格

講義名	法学概論（国際法を含む）							担当教員	坂田 雅夫
講義コード	1203110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL302, 235LAH303, 137ILA103								

授業概要

この授業では法律に関する基本知識を講義します。隣の人が自分の家の壁を壊した。怒って訪問しても、のりくらりとして、金を払うどころか、謝りさえしない。訴えてやりたいけど、どうすれば良いのか。ある朝、家にいきなり警察が来て、心当たりがないことで、逮捕された、自分はどうかになってしまうのか。こういった、本当は余り身近に来てほしくないけど、運が悪ければいつかやってくる厄介ごと。皆さんが思い浮かべる法律とは、こうした問題にからむものばかりでしょう。もちろん、こういう問題もこの授業では取り上げます。それ以外にも法律は、皆さんの日常生活にいろいろと深く結びついています。ニュース、街角、そして日常生活でみるいろいろな問題や単語が法律と結びついているんだと理解してもらえるのがこの授業の目標です。

到達目標

- (1) ニュースで出てくる法律関係の用語を理解できるようになる。
- (2) 公務員試験の法律・政治学関係の問題への基礎的知識を習得する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

初回講義時に指示

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『判例法学〔第5版〕』	西村健一郎、西井正弘	有斐閣	9784641184046
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	カウンセリング論演習/							担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	335PSY320								

授業概要

クライアントの感情や行動を理解しながら、彼（女）らのかかえる生きづらさを理解し、生活の細部を想像し、支えるための知識・技法を学ぶ。そのためにカウンセリングや心理療法の理論や知識の習得、およびロールプレイ、事例研究などを通じた実践的なカウンセリング技法の習得をはかる。

到達目標

クライアントが生きづらいとはどういうことなのか想像し、それを支えるとはどういうことが体験的に理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		それぞれの回でのワークへの参加と、そのレフレクション、最後のロールプレイ演習への参加と、それらをまとめたレポートの提出を総合的に判断する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

臨床心理学を受講しておくことが望ましい。

履修資格

講義名	環琵琶湖文化論実習（人間関係）						担当教員	学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 / 木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1400330	単位数	2	開講期	通年	授業種別			実習
ナンバリング番号	135LAH120								

授業概要

滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。テーマ別に班編成をし、調査を実施し、報告書の作成をおこなう。

到達目標

文献調査、現地調査、聞き取り調査を体験し、文献収集とフィールドワークの基本を身につける。
地域の歴史、文化、生活に対し、興味・関心を持つようになる。
個人だけでなく、グループによる調査を行う能力を身につける。
調査結果を発表し、報告書にまとめる能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表および各教員によって指示された提出レポート、最終報告書の内容を総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	教育学概論							担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA101, 235EDU202								

授業概要

本講義では、教育学の基本的概念を学ぶとともに、教育の理念や思想の歴史的展開をふまえながら、教育の本質と今日的課題について検討していく。また、近代教育制度が成立・発展してきた背景を理解し、現代学校の諸課題について考察するための歴史的視座を獲得する。

到達目標

- (1) 教育学の基本原則(理念、歴史、思想を含む)および教育と学習の具体的な現実を往還することで、教育に関わる現代的課題を理解することができる。
(2) レポート作成を通じ、読み手を意識した論理的な文章を書くことができる。
(3) 「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート
上記以外	50	中間テスト(20%) 感想および授業中の作業課題(30%)

感想および授業中の作業課題と中間レポート、最終試験の結果をもとに総合的に判断する。
3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業で扱った内容や参考文献をもとに、教育学の基本原則についての学習を深めること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

前提学力等

日本ならびに西洋の近現代史に関する基礎的知識を有すること。
とくに、ヨーロッパ史について高校の履修範囲を復習しておくことが望ましい。

履修資格

講義名	教育観察実習							担当教員	原 未来 / 木村 裕
講義コード	1400520	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	235EDU320								

授業概要

今日における学校内外の教育の現状を把握するため現地学習を行い、直接観察することにより、教育のあり方を学習する。
(なお、受講生の関心や実習先の都合に応じて、順序等が変更になる可能性がある)

到達目標

学校教育、社会教育の実態を把握すること。その上で、教育に関わる問題関心を持つこと。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	事前・事後学習へのとりくみと、見学への参加

上記を、総合的に評価する。ただし、見学への参加は必須とする。

授業外学習

見学に向けた予備的学習およびレポート作成に向けた追加の学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	教育心理学							担当教員	黒田 真由美
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA201,335PSY310								

授業概要

児童期の発達・学習・記憶・動機づけ等の心理学の基本的な概念について概説する。また、教育実践の事例を通して、いじめや発達障害等の問題について理解を深める。

到達目標

「学ぶ」ことの諸側面について、児童期の発達、学習、集団・適応という観点から学ぶ。心理学の用語や理論などの知識を習得すると同時に、心身の発達過程について体系的に学ぶことを目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教育心理学						担当教員	黒田 真由美	
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	304TEA201,335PSY310								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	教育心理学概観	
第2回	教育心理学の基礎(1)	条件づけ学習
第3回	教育心理学の基礎(2)	学習理論
第4回	教育心理学の基礎(3)	観察学習
第5回	教育心理学の基礎(4)	動機づけ
第6回	教育心理学の基礎(5)	記憶
第7回	教育心理学の基礎(6)	記憶
第8回	発達心理学の基礎(1)	児童期の発達
第9回	発達心理学の基礎(2)	児童期の自己理解の発達
第10回	教育心理学の応用(1)	学級集団, 教師期待効果
第11回	教育心理学の応用(2)	教室での協同学習
第12回	教育心理学の応用(3)	不登校といじめ
第13回	教育心理学の応用(4)	教師の抱える問題
第14回	発達障害の理解(1)	発達障害とは何か
第15回	発達障害の理解(2)	発達障害児の発達と支援
担当者から一言		

講義名	教育制度論							担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA202, 335EDU304								

授業概要

本講義では、現代日本における教育制度の基本原則や法構造を歴史的展開や具体例を踏まえて明らかにし、21世紀における教育制度の将来像を検討していく。講義では、教育制度の基本理念や制度を形作る基本原則、教育制度と実践の相克に関する事例や論点を取り上げていく。

到達目標

- (1) 現代日本の教育制度の基本原則、歴史的展開、法構造を理解している。
- (2) 教育制度をめぐる論点を理解し、根拠を持って意見を述べられる。
- (3) 「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート
上記以外	50	中間テスト (20%) 感想および授業中の作業課題 (30%)

感想および授業中の作業課題と小テスト、最終レポートの結果をもとに総合的に判断する。

授業外学習

授業の予習として必ず事前に教科書の該当箇所を読んでくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	【改訂版】未来を創る教育制度論	川口洋誉・中山弘之編著	北樹出版	
2				
3				

テキストを必ず入手すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

教職論、教育学概論を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	教育方法の理論と技術/							担当教員	木村 裕
講義コード	1400550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具（情報機器を含む）の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

到達目標

- (1) 自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得すること。
- (2) 自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること。
- (3) 他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	教育方法論							担当教員	木村 裕
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA102, 235EDU301								

授業概要

学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具（情報機器を含む）の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

到達目標

- (1) 自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得すること。
- (2) 自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること。
- (3) 他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	形成論演習							担当教員	木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	235EDU220								

授業概要

教育学に関わる問題群の中から関心のあるテーマを選び、各自の問題意識をまとめ、参考書や自分で選んだ資料を用いて発表を行うとともに、発表内容に関して他者と議論を行い、互いの考えを深める機会を提供することを目的とする（そのため、演習の内容および進め方については、受講生の興味・関心に応じて変更する可能性があることを了承されたい）。

到達目標

- (1) 教育学に関わるテーマについて視野を広げるとともに、さまざまな参考書や資料の検討なども行い、自身の考えを深めること。
- (2) 他者と議論を行い、互いの考えを深めるとともに、それを論理的かつ説得的に言葉で説明できるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	まとめのレポート
上記以外	50%	発表、および、演習への参加（議論への参加、事前事後コメント用紙の提出）

「3分の2以上の出席」「発表（「ふりかえり」も含む）」「まとめのレポートの提出」を単位認定の最低条件とする。

授業外学習

必ずテキストを事前に読み、その内容に関する意見や疑問などを準備したうえで、毎回の授業に臨むこと。具体的な方法などについては、授業中に適宜指示する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新・教育学 [第2版] 現代教育の理論的基礎	南新秀一ほか編著	ミネルヴァ書房	462305327X
2				
3				

テキストを必ず入手すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	形成論演習							担当教員	木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	235EDU220								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	演習全体の概要の説明を行う。
第2回	グループ作業	発表準備を行う。
第3回	グループ発表	「教育とは何か」に関して、発表ならびに議論を行う。
第4回	グループ発表	「発達と教育」に関して、発表ならびに議論を行う。
第5回	グループ発表	「教育課程」に関して、発表ならびに議論を行う。
第6回	グループ発表	「教育方法」に関して、発表ならびに議論を行う。
第7回	グループ発表	「生活指導」に関して、発表ならびに議論を行う。
第8回	グループ発表	「進路指導」に関して、発表ならびに議論を行う。
第9回	グループ発表	「教師論」に関して、発表ならびに議論を行う。
第10回	グループ発表	「教育制度」に関して、発表ならびに議論を行う。
第11回	グループ発表	「子どもの人権・権利」に関して、発表ならびに議論を行う。
第12回	グループ発表	「学力論」に関して、発表ならびに議論を行う。
第13回	グループ発表	「特別支援教育」に関して、発表ならびに議論を行う。
第14回	グループ発表	「社会教育と生涯学習」に関して、発表ならびに議論を行う。
第15回	後期オリエンテーション	前期のまとめと後期のオリエンテーションを行う。
第16回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第17回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第18回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第19回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第20回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第21回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第22回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第23回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第24回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第25回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第26回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第27回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第28回	レポート検討会の準備	レポートの草稿を持ち寄り、互いのレポートを検討するための準備を行う。
第29回	レポート検討会	レポートの草稿を持ち寄り、検討会を行う。
第30回	まとめ	演習全体のふりかえりとまとめを行う。

担当者から一言

講義名	現代社会福祉論							担当教員	中村 好孝
講義コード	1400670	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335S0C307-C								

授業概要

本講義は、障害、貧困、居住、虐待など、福祉についての個別のトピックと、福祉の社会的な仕組みについて考察する。本講義が特にとりあげるのは、お金がなかったり身体が動かなかったり住む場所がなかったりする人も大変だということであり、そういった人の役に立つ制度も大切だということである。

到達目標

(1)そもそも現代社会の福祉にはどのような対象があるのか、そしてどのような活動が行なわれてきたのか、行なわれているのか、これらについて知る。(2)それらをとりにくく社会的条件を知る。(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(30%)。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジユメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	現場心理学							担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400710	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335PSY308								

授業概要

私たちの日常生活における「当たり前」を問い直し、批判的な視点から日常をとらえなおす力を養うことを狙いとする。具体的には「司法」と「臨床」が交わる現場、すなわち犯罪・非行、児童虐待、いじめといった問題をとりあげる。司法と臨床は、同じ現場を共有しているようでありながら、そのアプローチ方法はそれぞれ異なっており、両者をつきあわせてみることで、ともすると人々が「当たり前」だと思っていたことを問い直すきっかけになる。本講義では、いくつかの立場からの研究例を示しつつ解説しつつ、どのような問題があるのかを考える。授業では一方向的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッション、種々のワークをとり入れる。積極的な参加を期待する。

到達目標

司法臨床場面をあつかった心理諸科学における基礎的用語を理解し、用いることができる。
司法臨床的な問題解決についての自分なりの方針をたてることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	普通の授業における発表、レフレクションシートへの記入(50%)、最終レポート(50%)をもとに総合的に判断する。

授業外学習

授業毎にグループでの話し合いなどをする場合がある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

履修資格

講義名	行動論演習							担当教員	細馬 宏通 / 上野 有理 / 河村 悠太 / 後藤 崇志 / 松嶋 秀明
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	235PSY221								

授業概要

行動科学や社会科学における問いのたて方や研究方法の実際について学ぶ。身近な生活や地域での人々のかかわりに素材を得て研究テーマを設定するところから、グループ演習を中心に授業を実施する。

到達目標

質問紙法、検査法、実験法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	授業中の発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	行動論演習							担当教員	細馬 宏通 / 上野 有理 / 河村 悠太 / 後藤 崇志 / 松嶋 秀明
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	235PSY221								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	心理学研究法の概要	実証的研究のタイプと長所・短所に関する理論的事項の説明
第2回	実験法 1	要因計画法による実験の実施 (1)
第3回	実験法 2	要因計画法による実験データの分析 (1)
第4回	実験法 3	要因計画法による実験の実施 (2)
第5回	実験法 4	要因計画法による実験データの分析 (2)
第6回	実験法 5	要因計画法による実験デザインの考え方
第7回	実験法 6	実験レポートの書き方
第8回	実験法 7	実験計画の実践：立案から実験の実施、データのまとめまで
第9回	質問紙法 1	手法の特徴を知る
第10回	質問紙法 2	信頼性・妥当性について分析する
第11回	質問紙法 3	因子構造について分析する
第12回	質問紙法 4	仮説について検討する (1)
第13回	質問紙法 5	仮説について検討する (2)
第14回	質問紙法 6	仮説について検討する (3)
第15回	質問紙法 7	分析結果を報告する
第16回	相互行為分析	行動を記述するための基本：発声に注目する / 動作に注目する。注釈をつける (annotation)。
第17回	相互行為分析	動作の基本的分析：身体の特定位位に注目する。動きと停滞を区別する
第18回	相互行為分析	動作と身体を割る：身体の各部位ごとに、動きの分節点を明らかにする
第19回	相互行為分析	発声と動作の連鎖分析 (1)：個人内の変化を記述する
第20回	相互行為分析	発声と動作の連鎖分析 (2)：個人間の会話を記述する。トランスクリプトを作る。
第21回	相互行為分析	発声と動作の連鎖分析 (3)：個人間の動作を記述する。簡単な分析結果をレポートにする。
第22回	相互行為分析	映像分析：ショットとカットを区別する。発声と動作のタイミングに注意しながら簡単な映像分析をレポートにする。
第23回	インタビュー法 1	インタビューの特徴について知る
第24回	インタビュー法 2	質問項目を考える
第25回	インタビュー法 3	インタビューをやってみる
第26回	インタビュー法 4	SCATによる分析の演習 (第1 - 2次コーディング)
第27回	インタビュー法 5	SCATによる分析の演習 (第3 - 4次コーディング)
第28回	インタビュー法 6	SCATによる分析の演習 (ストーリーラインと図解)
第29回	インタビュー法 7	インタビュー分析結果まとめ方
第30回	総括	全体のまとめ

担当者から一言

授業実施計画の順番は変更する可能性がある。
原則として人間関係学科の学生の履修とする。他学部、他学科生については、履修前に担当教員に相談のこと。

講義名	高齢者行動論							担当教員	城 綾実
講義コード	1400860	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

日本はすでに65歳以上の人口が総人口の21%を超えている超高齢社会に突入しています。高齢になるにつれて、人はどのような身体的・認知的・心理的变化をしていくのでしょうか。また、2017年にはOECD加盟国の中で日本の認知症患者の割合が最も高いと報告されています。認知高齢者の方は、どのような症状を有しているのでしょうか。この授業では、高齢者の行動に関する様々な知見を紹介した上で、私たちが高齢者とのやりとりでどのようなことを心がけ、行動するのが望ましいのかについて学んでいきます。

到達目標

- (1) 高齢者について多角的に理解する
- (2) 高齢者が直面する様々な困難に対して、サポートするための知識を習得する
- (3) 高齢者の豊かさを引き出すようなコミュニケーションができるようになる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	第15回にテストを実施し、(1)(2)についてそれぞれ25%で評価する。
レポート課題	25	第8回後にレポート課題を出題し、(3)について20%で評価する。
上記以外	25	第11～14回の授業中に出題されるワークおよび授業態度によって、(1)(2)(3)について総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	介護するからだ	細馬 宏通	医学書院	978-4260028028
2	高齢者介護のコミュニケーション研究	石崎 雅人 (編)	ミネルヴァ書房	978-4623078721
3	ユマニチュード入門	本田 美和子、ロゼット・マレス コッティ、イヴ・ジネスト	医学書院	978-4260020282

授業に必要な箇所は、プリントを配布するなどしますので、授業を受けるためだけに購入する必要はありません。より学びを深めたい方は、図書館

前提学力等

心理学の基礎的な知識を有していることが望ましい。

履修資格

講義名	コミュニケーション論							担当教員	細馬 宏通 / 劉 礫岩
講義コード	1400880	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

人と人がことばを使いジェスチャーを交わすとき、ことばやジェスチャーの意味はあらかじめお互いの間に共有されているわけではない。また、意味は発し手から一方的に生まれるのではない。むしろ受け手の反応によって次々と意味は更新されていくと見るべきである。最近のコミュニケーション理論は、多かれ少なかれ、コミュニケーションをこうした「双方向的」で「絶えず更新される」ものとして考えている。本講義ではこうしたコミュニケーション論の動向について、さまざまな理論を紹介しながら考えていく。

到達目標

- (1) コミュニケーションの時間枠組みの基本概念を理解できるようになる。
- (2) ことばと身体動作の時間構造を比較しながらコミュニケーションを読み解く力が身につく。
- (3) 多様な状況や文化で起こるコミュニケーションに関心を持つことができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	全回の講義内容を理解しているかを問う。特定の現象について自力で分析をする課題により評価を行う。
上記以外	50	レスポンスペーパー（随時）講義中に各回に関連する質問を行い、回答内容を評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	産業心理学							担当教員	谷口 友梨
講義コード	1400920	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335PSY311								

授業概要

本講義では、キャリア発達、集団特性、集団内の影響、安全と事故といった産業心理学の基礎的なテーマを中心に講義を行う。私たちは従業員や雇用者、あるいは消費者として、産業と密接に関わりながら生活をしている。人々が産業と関わる際、そこには様々な心理が働く。その際の人間の心的メカニズムを研究知見に基づき解説する。これによって、将来の職業生活（ワーク・ライフ）に向けて自らのキャリア発達について考える機会としたい。

到達目標

- 1) 各講義で紹介あるいは議論された知見を自分自身の言葉で要約して表現することができる。
- 2) 産業心理学に関わる事象を複数の観点から理解し、その事象についての自分自身の意見や見解を伝えることができる。
- 3) 産業心理学の知見（授業で身に付けた知識や考え方）と自身の生活との関連を表現して伝えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)(2)(3)について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	30	・毎回の講義のコミュニケーションペーパーの提出(20%：到達目標1に対応) ・ワーク、プロジェクトなどの授業内の活動への参加と振り返り(10%：到達目標2と3に対応)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	よくわかる産業・組織心理学	山口裕幸・金井篤子(編)	ミネルヴァ書房	ISBN-10: 4623048713 ISBN-13: 978-4623048717
2				
3				

各回授業時に資料を配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	質的データ解析論							担当教員	武田 俊輔
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C205, 235S0C205								

授業概要

社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、質的調査の方法を習得することを目的とする。

到達目標

- (1) 先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。
- (2) 特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。
- (3) 質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。
- (4) 参与観察の基本的な考え方を習得できる。
- (5) 行ったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	以下の5回のレポートを課す。 1) 先行研究や関連資料、統計データを収集することができる(20%)。 2) インタビュー調査を適切に依頼し、また事前に適切な質問項目を設定することができる(20%)
上記以外		毎回提出してもらったレスポンスカードの内容が優れていた場合、加点を行うことがある。1回につき2点、ただし15回の授業を通して、5回以内(10点以内)とする。

レポートの提出回数が3回以下の場合、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	自分で調べる技術 市民のための調査入門	宮内泰介	岩波書店	4007001170
2	質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美	有斐閣	4641150370
3	よくわかる質的社会調査 プロセス編	谷富夫・山本努	ミネルヴァ書房	4623058441

授業中にレジュメやレポート執筆に必要な資料を配付する。

前提学力等

社会調査士資格認定科目(F科目。資格取得にはE科目の応用データ解析論と本科目のいずれか1つを履修すること)であり、1回生配当の社会調査論を履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	社会学演習							担当教員	丸山 真央 / 大野 光明 / 中村 好孝
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	235S0C220								

授業概要

この演習では「社会と人間」という視点から、人間関係を理解・認識するための「見る眼」と「問題を発見する能力」を習得することを狙いとする。問題意識を明確にし、共通の理解を深めるために、下記の授業計画に沿って参加者はグループに分かれ、各グループで発表者、司会の役割を分担して演習を進める。発表者はレジュメを作成して報告し、それについて全員で討議する。発表・討議が完了したのち、発見された問題点、共有された見解についてレポートを作成し、提出する。

到達目標

- (1) 人間関係の時間的変化と空間的・領域的差異を認識し理解することができる。
- (2) 社会の構造と変動を捉える基礎知識と視点を獲得し、現代日本社会の諸問題を社会的に捉えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	レポートを課し、到達目標の(1)と(2)について評価する((1)50%、(2)50%)。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。前もってプリント等を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会学演習							担当教員	丸山 真央 / 大野 光明 / 中村 好孝
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	235S0C220								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	この授業全体について、ガイダンスを実施する。
第2回	社会問題における家族(1)	「メディアにおける変容」について考える。
第3回	社会問題における家族(2)	「問題の実体化プロセス」について考える。
第4回	社会問題における家族(3)	「家族における葛藤」について考える。
第5回	社会問題における家族(4)	「社会的条件」について考える。
第6回	社会問題における家族(5)	「当事者から見た家族」について考える。
第7回	社会問題における家族(6)	「親の会の機能」について考える。
第8回	社会問題における家族(7)	「成員のライフストーリー研究」について考える。
第9回	社会問題における家族(8)	「社会的取り組み」について考える。
第10回	まとめ(1)	第2～9回までのまとめをおこなう。
第11回	格差と階級(1)	「格差社会」から「新しい階級社会」への変化について考える。
第12回	格差と階級(2)	「分解した中流」について考える。
第13回	格差と階級(3)	「現代日本の階級構造」について考える。
第14回	格差と階級(4)	「アンダークラスと新しい階級社会構造」について考える。
第15回	格差と階級(5)	「階級は固定化しているか」について考える。
第16回	格差と階級(6)	「わたちの階級社会」について考える。
第17回	格差と階級(7)	「格差をめぐる対立の構造」について考える。
第18回	格差と階級(8)	「より平等な社会を」という論点について議論し、理解を深める。
第19回	格差と階級(10)	「大都市と地方をめぐる格差と階級の諸相」について考える。
第20回	まとめ(2)	第11～19回のまとめをおこなう。
第21回	分断と暴力(1)	社会の分断と暴力というテーマを設定する。
第22回	分断と暴力(2)	ジェンダーについて考える。
第23回	分断と暴力(3)	セクシュアリティについて考える。
第24回	分断と暴力(4)	階級について考える。
第25回	分断と暴力(5)	民族について考える。
第26回	分断と暴力(6)	宗教について考える。
第27回	分断と暴力(7)	国境について考える。
第28回	分断と暴力(8)	テロリズムと監視社会について考える。
第29回	分断と暴力(9)	社会運動や実践がつくる世界について考える。
第30回	まとめ(3)	第21～29回のまとめをおこなう。

担当者から一言

講義名	社会学概論							担当教員	武田 俊輔 / 大野 光明 / 中村 好孝 / 細馬 宏通 / 丸山 真央
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC102, 135SOC201								

授業概要

本講義は、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法について概説し、あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行うものである。

到達目標

- (1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる。
(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる(50%)、(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる(50%)について、小レポート・中間レポート・最終レポート(合計100%)。
上記以外		

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会学 第5版	アンソニー・ギデンズ	而立書房	4880593508
2	Do! ソシオロジー 改訂版 -- 現代日本を社会学で診る	友枝敏雄他編	有斐閣	4641124965
3	社会学入門	塩原良和・竹ノ下弘久編	弘文堂	4335551401

前提学力等

高校の倫理・政治経済、現代社会、世界史、日本史で修得している程度の知識は必要だが、とくに問わない。

履修資格

講義名	社会学史							担当教員	中村 好孝
講義コード	1401060	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

これまでの社会学の歴史について、社会学誕生以前の社会思想、近代に生まれた社会学、現代展開中の社会学の三期に分けて、主要な理論の概要とそれらの展開について学ぶ。社会学の歴史を学ぶことがなぜ大切なのかといえは、本講義でとりあげる社会的な構え・方法態度は、今でも通用するからである。「社会学」の歴「史」の講義であるが、歴史について学ぶことと、一通りの社会的な発想について身につけることを、同じくらいに重要な目標として設定する。

到達目標

(1)社会学の歴史について一通りの知識を得る。(2)個々の社会学の議論・理論について理解する。(3)自分が今生きている社会について、社会的に考えるための思考方法を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(30%)。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジユメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会的想像力	ライト・ミルズ	ちくま学芸文庫	978-4480097811
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	社会心理学(人間関係)							担当教員	後藤 崇志
講義コード	1401100	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	235PSY304								

授業概要

人が社会をどのように認識し、自己を位置づけ、他者や世界と関わっているのかを明らかにしようと、社会心理学で行われてきた研究の方法や成果について解説する。人の認知や行動が、他者の存在や、他者との関係性によってどのように影響を受けているのかについて、理解を深めることを目的とする。

到達目標

- (1) 人の社会的な行動を支える心の仕組みについて理解を深める。
- (2) 社会問題の解決や社会の改善に向けて、心理学的なアプローチをとるための考え方を身に着ける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができているかを評価する。

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	グラフィック社会心理学 第2版	池上知子・遠藤由美	サイエンス社	978-4-7819-1191-5
2	社会心理学概論	北村英哉・内田由紀子 編	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1059-5
3	新 社会心理学 心と社会をつなぐ知の統合	唐沢かおり 編	北大路書房	978-4-7628-2851-5

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

前提学力等

「心理学基礎」を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	社会精神医学							担当教員	久保田 泰考
講義コード	1401110	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335PSY313								

授業概要

「こころ」が、体のひとつの器官としての脳の働きによって成り立っているとすれば、「こころの病気」を扱う精神医学は、脳の調子が崩れる仕組みを研究し、それを効率よく適切に治療することに専念すればよい、と考えられるかもしれませんが、そこで忘れられがちなのは、こころを病む人はたった一人で病むわけではなく、人との関係・ネットワークの中で、人から影響を受け、また影響をおよぼしながら病んでいるという観点です。友達も話し相手もなく、ずっと孤立していたらそれだけで「うつ」になってしまいそうです。また一方で人間関係がわずらわしく、どこかに消えてしまいたいと思うこともまた誰にもあるかもしれません。現代社会の生活から生じるストレスは高まる一方で、「こころの病気」になる人が増え続けていると言われます。こうした言説がどれほどの真実をついているかはさておき、社会と「こころを病む人」の関係を今日改めて問い直すことの重要性は否定しようもないことでしょう。こうした状況を生きのびるために、私たちそれぞれが固有の社会精神医学的視点を持つ必要に迫られているといえるかもしれません。講義では精神医学全般についての知識を広く学習しながら、今日のように社会と精神医学の関係を捉えることが可能であるのかについて、各自が自分なりの見解を持つことを目標とします。適宜映像資料なども交えて、アクチュアルな問題について検討する場を持ちたいと考えています。

到達目標

- (1) 主要な精神疾患・障害について、歴史的な視座も含めた基礎的な理解を深める
- (2) 社会がどのように精神疾患・障害を扱ってきたかについて、批判的に主要な論点を説明することができる
- (3) こころを病む個人と社会の関係について、例えばこころを病む人を取り上げた芸術作品を例にとり、各自が自分なりの考えを表明することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	各自の疑問点を網羅的にリストアップするレポート1と、固有のテーマについて各自の考えを自由に展開するレポート2から評価する。
上記以外	40%	授業中の簡単な討議や意見の表明における積極性、独自の見方を表明する能力、および授業中の小レポート(感想文)から評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料を配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ニューロサイコアナリシスへの招待	岸本寛史他	誠信書房	4414400988
2	ニューロラカン: 脳とフロイト的無意識のリアル	久保田泰考	誠信書房	4414416302
3				

前提学力等

こころの病気に関心があること唯一の条件です。

履修資格

講義名	社会調査実習（地域文化、人間関係）							担当教員	塚本 礼仁 / 萩原 和
講義コード	1401120	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。なおこの実習は社会調査士資格・地域調査士資格を取得する際に必要となる認定科目である。

到達目標

- (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
- (2) 調査計画を立案することができる。
- (3) 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
- (4) 調査成果を発表し、討論することができる。
- (5) 報告書を作成することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。

授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動に基づいて調査を行い、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
2				
3				

講義の中で紹介する。

前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習 のいずれかの単位を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	社会調査実習（地域文化、人間関係）							担当教員	塚本 礼仁 / 萩原 和
講義コード	1401120	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと共に、班分けを行う。
第2回	調査方法の解説（1）	社会調査の調査方法について解説する。
第3回	調査方法の解説（2）	社会調査の調査方法について解説する。
第4回	調査方法の解説（3）	社会調査の調査方法について解説する。
第5回	先行研究の収集と読解（1）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解（2）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第7回	先行研究の収集と読解（3）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第8回	調査計画の策定と発表（1）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第9回	調査計画の策定と発表（2）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第10回	調査計画の策定と発表（3）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第11回	調査計画の策定と発表（4）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第12回	現地調査（1）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第13回	現地調査（2）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第14回	現地調査（3）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第15回	現地調査（4）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第16回	調査成果の発表と討論（1）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第17回	調査成果の発表と討論（2）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第18回	調査成果の発表と討論（3）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第19回	調査成果の発表と討論（4）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第20回	調査成果の発表と討論（5）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第21回	調査成果の発表と討論（6）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第22回	追加調査（1）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第23回	追加調査（2）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第24回	追加調査（3）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第25回	追加調査（4）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論（1）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第27回	報告書原稿の作成と討論（2）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第28回	報告書原稿の作成と討論（3）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第29回	報告書原稿の作成と討論（4）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第30回	報告書原稿の作成と討論（5）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。

担当者から一言

講義名	地域社会調査実習							担当教員	塚本 礼仁 / 萩原 和
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。

到達目標

- (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
- (2) 調査計画を立案することができる。
- (3) 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
- (4) 調査成果を発表し、討論することができる。
- (5) 報告書を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。

授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動にもとづいて調査をおこない、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民俗芸能の伝承活動と地域生活	澁谷美紀	農山漁村文化協会	978-4-540-05325-2
2	地場産業産地の革新	上野和彦	古今書院	978-4-7722-4105-2
3	地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9

講義の中で紹介する。

前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習 のいずれかの単位を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	地域社会調査実習						担当教員	塚本 礼仁 / 萩原 和	
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別			実習
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと班編成をおこなう。
第2回	調査方法の解説(1)	地域・社会調査の方法、特に調査倫理、危機管理、依頼文書の作成法などについて解説する。
第3回	調査方法の解説(2)	地域・社会調査の方法、特に社会的な基本事項(インタビュー調査や質的調査における質問紙・調査票の作成、データの整理方法など)について解説する。
第4回	調査方法の解説(3)	地域・社会調査の方法、特に地理学的基本事項(統計データの入手・使用法、地形図の使用法、土地利用調査・景観調査の手法など)について解説する。
第5回	先行研究の収集と読解(1)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解(2)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第7回	先行研究の収集と読解(3)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第8回	調査計画の策定と発表(1)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第9回	調査計画の策定と発表(2)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第10回	調査計画の策定と発表(3)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第11回	調査計画の策定と発表(4)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第12回	調査計画の策定と発表(5)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第13回	現地調査(1)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第14回	現地調査(2)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第15回	現地調査(3)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第16回	調査成果の発表と討論(1)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第17回	調査成果の発表と討論(2)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第18回	調査成果の発表と討論(3)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第19回	調査成果の発表と討論(4)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第20回	調査成果の発表と討論(5)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第21回	追加調査(1)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第22回	追加調査(2)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第23回	追加調査(3)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第24回	追加調査(4)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第25回	追加調査(5)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論(1)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第27回	報告書原稿の作成と討論(2)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第28回	報告書原稿の作成と討論(3)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第29回	報告書原稿の作成と討論(4)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第30回	報告書原稿の作成と討論(5)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
担当者から一言		

講義名	社会調査方法論							担当教員	大野 光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230SOC204, 233MKD281, 235SOC203								

授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。
 社会調査は大きく分ければ、量的調査と質的調査に分けることができる。本講義では、(1)量的調査については、調査票を用いた調査の方法を修得することに重点を置く。具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定(全数調査と標本調査)、標本抽出(無作為抽出、標本数・標本誤差の理解)、調査票と質問文の作成、調査の実施(調査票の配布・回収の方法)、収集されたデータの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング)について学ぶ。(2)質的調査については、インタビュー調査の方法を学び、面接調査の実施方法やフィールドノートの作成方法などを修得する。
 講義では、調査票の作成等、グループワークやグループディスカッションを積極的に取り入れる。

到達目標

- (1) 調査目的・方法・手順および調査問題の選択と仮説の設定について理解することができる。
- (2) 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
- (3) 質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に数回の小課題を出して評価する。

小課題(複数回)と最終試験を実施する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会調査の基礎	篠原清夫ほか	弘文堂	978-4335551338
2	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社	978-4589038173
3	質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学	岸政彦ほか	有斐閣	978-4641150379

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

グループワークやグループディスカッションに積極的に参加できる人、あるいは、苦手かもしれないけれどチャレンジしてみようという人の参加をお待ちしています。

履修資格

講義名	社会調査論							担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202								

授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的・生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

到達目標

- (1) 社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
- (2) 社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
- (3) 国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	到達目標(3)については、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30%	到達目標(1)(2)については、2回程度授業中に小レポートを実施する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な理由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。必要に応じて授業中にプリント等の資料を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	生涯学習論							担当教員	原 未来
講義コード	1401340	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204CUR103, 235EDU203-C								

授業概要

人々の学びは、さまざまな時期に、さまざまな場で展開されている。本講義では、人間のおよび社会的な発達を視野に入れた生涯学習や社会教育の実践や理論を学んでいく。そのなかで、人々にとっての学ぶことの意味を深めるとともに、自らの学習を振り返る機会としてほしい。

到達目標

- ・学ぶことの意味を様々な視点・立場から捉えなおすことを通じて、学習の意義を考え理解する
- ・他者との議論のなかで、自らの教育観・学習観を言語化し、また、他者の意見から自らの考えを深める

*受講者の理解や関心によって、扱う順序や内容を変更します

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	学期末レポート
上記以外	20	授業後のリアクションペーパーの内容

上記を、総合的に評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に随時プリント資料を配布するほか、参考書も適宜紹介する

前提学力等

2年次以降の履修が望ましい

履修資格

講義名	消費生活論							担当教員	小牧 美江
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133MKD182, 134NUT214, 135LAH207								

授業概要

私たちは、生活に必要な商品(物・サービス)を購入し、消費することで生活を営んでいる「消費者」である。消費生活論は、私たちの生活のあらゆる場面で消費者が行う消費の側面から分析し、その成果をもとに、より良い消費行動を通じて経済活動を活性化し、消費者被害・消費者問題の発生を防止、消費者被害救済のシステムを改善するなど、私たちの生活の改善や社会の改善につなげていく学問である。

本講義では、消費生活を分析する視点として、「法」と「人権」に着目する。「消費」を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直し、そこに登場する「消費者」「事業者」の権利と責任、関係性、消費者トラブルの実情と原因、消費者法・消費者行政が果たす役割、消費者の人権について考えていく。

消費者が、社会問題、倫理、世界情勢、将来世代の状況等、様々な社会状況や課題を考慮して消費行動を選択することで事業者や政府に対して能動的に働きかけを行うことを通じて、消費者自身の権利を守り、公正な事業活動を促進し、その結果として構築される公正で持続可能な社会を「消費者市民社会」という。本講義では、この消費者市民社会の実現をめざす「消費者市民」とはどのような消費者なのかについても、消費者の権利と責任をキーワードとして考え、自らも「消費者市民」としての行動ができるようになることをめざす。また、「消費者市民を育てる消費者教育」のあり方についても考えていく。

講義形式を中心とするが、適宜、グループ討論やプレゼンテーションなどの演習も取り入れる。

到達目標

- (1)消費生活をさまざまな角度から分析するための基礎となる知識を学び、自分の言葉で説明することができるようになる。
- (2)消費者である自分自身の消費生活に関する課題に気づき、その課題解決に必要な情報を収集・分析し、課題を解決しようとする態度を身につけることができる。
- (3)消費者の権利と責任、消費者市民社会について理解し、消費者市民としての行動ができるようになる。
- (4)消費者教育が様々な年齢層・場面等に応じて行われることを学び、自分が消費者教育に関わることができる場面と方法を見つけることができるようになる。
- (5)消費生活をさまざまな側面から分析することを学び、自分が専門に研究を深めたいと考えている分野の学問と消費生活との接点を見つけることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	到達目標(1)(4)(5)については、レポート試験を課す。50点満点とし、課題を理解し説明できているか(25点)、自分の学習成果を盛り込み見解を述べているか(15点)、レポート全体が文章として完成しているか(10点)の3基準で採点する。レポート作成方法については、授業中に指導する。
上記以外	50	到達目標(2)(3)については、授業中に提示する小レポートの成果(20点満点)と、課題レポートについての課題発表会での発表(プレゼンテーション)の成果と発表方法(30点満点)を採点する。レポート作成・発表方法については、授業中に指導する。

全15回のうち5回以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

授業外においても、消費者庁、国民生活センター、適格消費者団体等のウェブサイトで公開されている消費者被害情報など、消費者に関する情報や報道に注目し、自身の消費者としての日常生活における行動を点検する姿勢を身に付けてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新しい消費者教育 - これからの消費生活を考える	神山久美・中村年春・細川幸一編著 / 日本消費者教育学会関東支部	慶應義塾大学出版会	9784766423075
2				
3				

授業中に配付するレジュメ・資料と共に用いる。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	18歳から考える消費者と法・第2版	坂東俊矢・細川幸一	法律文化社	9784589036124
2	ジェンダーで学ぶ生活経済論・第2版	伊藤純・斎藤悦子	ミネルヴァ書房	9784623073542
3	消費者政策 - 消費生活論・第5版	鈴木深雪	尚学社	9784860310806

この他、授業中に参考図書を通覧紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	心理・発達・行動学実験演習						担当教員 細馬 宏通 / 上野 有理 / 後藤 崇志 / 松嶋 秀明	
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業種別		演習
ナンバリング番号	135PSY220							

授業概要

人間行動に対する総合的な研究実習を目的とする。1)人間の行動や心の働きを、どのように記号化し、どのように解析することができるか・できないかを、具体的な実習を通じて検討する。2)観察行動自体を制約するヒトの認知・コミュニケーション特性に焦点をあて、これに関する基礎的な心理学実習を実施し、データの扱いを学ぶ。3)行動発達の場合である、野外の研究フィールドや教育・福祉関係の実践現場にでかけ、各種観察法を実習する。

到達目標

行動観察法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	発表や各担当教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。

授業外学習

適宜実施する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	心理・発達・行動学実験演習							担当教員	細馬 宏通 / 上野 有理 / 後藤 崇志 / 松嶋 秀明
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	135PSY220								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	フィールドに出てフィールドノートに書く	フィールドノートを書く。イヤー・クリーニングと簡単なできごとの記述。
第2回	行動観察の第一歩	鉛筆の持ち方を題材に、行動の分類方法を考える。タイプ（排他的）とアスペクト（排他的でない）の考え方。
第3回	目を使わずに考える	アイマスク歩行実習。体験をことばにする。
第4回	映像と音声記録の基本	カメラの扱い方、三脚、レコーダーの使い方。フィールドで映像と音声を記録する方法。記録したものを保存し分ける方法。
第5回	学内フィールドワーク	学内インターフェースの調査。静止画像の撮影方法と収集、比較方法。画像を取り込んだレポートの書き方。
第6回	学内フィールドワーク（2）	学内のドア開け行動を観察する。多人数のインタラクションを記述する第一歩。
第7回	行動の時間構造を分類する。	簡単な相互行為を撮影、記録して、そのデータを、もとに行動を時間によって捉える演習。
第8回	行動研究の意義	行動を指標として心の働きを考える
第9回	行動研究の過程	行動研究の進め方
第10回	行動研究の手法	実験的手法と自然観察
第11回	学外実習のための事前学習	研究対象と観察手順の理解
第12回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録
第13回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録
第14回	観察データの処理	学外実習で得た観察データの分析とまとめ
第15回	観察結果の報告	グループ発表会と総括
第16回	自己と他者（1）	ゲーミング・ワークショップを通じて、自己と他者の知識や認識の相違点・類似点について体験的に学ぶ
第17回	自己と他者（2）	ゲーミング・ワークショップを通じて、自己と他者の知識や認識の相違点・類似点について体験的に学ぶ
第18回	他者とコミュニケーション（1）	ゲーミング・ワークショップを通じて、他者とのコミュニケーションに関わる心の働きについて学ぶ
第19回	他者とコミュニケーション（2）	ゲーミング・ワークショップを通じて、他者とのコミュニケーションに関わる心の働きについて学ぶ
第20回	自己の物語（1）	ゲーミング・ワークショップを通じて、人々が自分の過去・現在・未来をどのように捉えているのかを体験的に学ぶ
第21回	自己の物語（2）	ゲーミング・ワークショップを通じて、人々が自分の過去・現在・未来をどのように捉えているのかを体験的に学ぶ
第22回	自己の物語（3）	ゲーミング・ワークショップを通じて、人々が自分の過去・現在・未来をどのように捉えているのかを体験的に学ぶ
第23回	学外フィールド実習	「関与しながらの観察」とは何かを知る。ぶあつい記述とは何かについて知る。
第24回	学外フィールド実習（事前学習1）	自分たちの学校外の時間、遊びの記憶から、放課後の体験の意義について学ぶ。
第25回	学外フィールド実習（事前学習2）	レクチャーをもとに、「放課後児童クラブ」の実際について学ぶ。
第26回	学外フィールド実習（フィールド・エントリー1）	放課後児童クラブでの参与観察（1）：現場を体験的に知る
第27回	学外フィールド実習（自然場面の記述）	放課後児童クラブでの参与観察（2）：現場になじむ
第28回	学外フィールド実習（仮説検証しつつの観察）	放課後児童クラブでの参与観察（3）：現場にはたらきかける
第29回	学外フィールド実習（ぶあつい記述）	放課後児童クラブでの参与観察（4）：現場を記述する
第30回	学外フィールド実習（レフレクション）	参与観察結果をもとにレフレクションを行い、体験を深める。

担当者から一言

授業実施計画の順番は変更される場合がある。原則として人間関係学科の学生の履修とする。他学部、他学科生については、履修前に担当教員に相談のこと。

講義名	心理学基礎							担当教員	後藤 崇志
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD105, 134NUT106, 135PSY201								

授業概要

現代心理学の基本的なテーマについて解説する。人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などのテーマをとりあげる。心理学的なアプローチにより人間を理解しようとするための基礎的な知識や考え方を身に着けることを目的とする。

到達目標

- (1) 人の思考や行動、社会生活などを支える心の仕組みの基礎について理解を深める。
- (2) 人の心の仕組みを明らかにし、社会に活かそうとする科学的なアプローチについて理解を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができているかを評価する。

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	心の科学 理論から現実社会へ [第2版]	兵藤宗吉・緑川 昌 編	ナカニシヤ出版	9784779511431
2	教育認知心理学の展望	子安増生・楠見 孝・齊藤 智・野村理朗 編	ナカニシヤ出版	9784779510496
3				

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	生活経営論							担当教員	山田 歩
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333MKD282, 234NUT371, 335LAH308								

授業概要

この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、私たちの生活をよりよくマネジメントする力とそれらを改善する力を身につけることを目標とします。身近な生活課題をとりあげると同時に、ソーシャル・デザインの視点から展開されている様々なコミュニケーション施策をみていくことで、現在と将来の自分の生活を見つめ直し、それらをよりよいものに設計することに役立ててもらいたいと考えます。授業では受講生みずからも課題を発見し、それを解決するアイデアを考えてもらいます。

到達目標

1. 私たちを取りまく生活環境を理解しているか
2. 社会や生活者が抱える課題を発見し、それらを解決する力を身につけているか

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	社会や生活者が抱える課題を発見する力、また、それらを解決する力について評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アイデアは地球を救う。希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン	ソーシャルデザイン会議実行委員会	宣伝会議	
2	Communication Shift	並河進	羽鳥書店	
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活指導論/							担当教員	原 未来
講義コード	1401570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

教育やそれにかかわる現象は、誰もが身近に体験してきたものだけに、感情的・主観的に語られやすい。本授業では、統計・インタビュー調査などさまざまな資料の分析をおこなうことを通じて、自らの教育体験や「常識」を相対化し、多角的なものを見方を身につけていくことを目指す。身近な題材から、現代の子ども・若者、ひいては自分が、どのような世界を生活しているのか、教育とは何かについて、考えを深める機会としてほしい。

到達目標

- ・統計資料やインタビューデータ等をもとに、生活・教育現象を正確かつ多面的に把握し、今日の教育的課題について理解する
- ・意見交流のなかで自分の意見を表現し、また、他者の異なる意見から自らの考えを深める

なお、受講生の理解や関心によって、扱う順序や内容を変更する可能性がある

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	学期末課題(レポートもしくは試験)70% 授業後のリアクションペーパーの内容30%

到達目標に即して、総合的に評価する

授業外学習

資料を事前に読んでくることを求める場合がある。また、授業内で関心をもった事柄については、自身で積極的に学習し、発信してほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料プリントを配布するほか、参考書も適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	生活と教育							担当教員	原 未来
講義コード	1401575	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	135EDU201								

授業概要

教育やそれにかかわる現象は、誰もが身近に体験してきたものだけに、感情的・主観的に語られやすい。本授業では、統計・インタビュー調査などさまざまな資料の分析をおこなうことを通じて、自らの教育体験や「常識」を相対化し、多角的なものを見方を身につけていくことを目指す。身近な題材から、現代の子ども・若者、ひいては自分が、どのような世界を生活しているのか、教育とは何かについて、考えを深める機会としてほしい。

到達目標

- ・統計資料やインタビューデータ等をもとに、生活・教育現象を正確かつ多面的に把握し、今日の教育的課題について理解する
- ・意見交流のなかで自分の意見を表現し、また、他者の異なる意見から自らの考えを深める

なお、受講生の理解や関心によって、扱う順序や内容を変更する可能性がある

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	学期末課題(レポートもしくは試験)70% 授業後のリアクションペーパーの内容30%

到達目標に即して、総合的に評価する

授業外学習

資料を事前に読んでくることを求める場合がある。また、授業内で関心をもった事柄については、自身で積極的に学習し、発信してほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料プリントを配布するほか、参考書も適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	生活法							担当教員	山中 稚菜
講義コード	1401710	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本講義では、市民生活を規律する最も重要なルールである民法、さらには民法を取り巻く様々なルールについても目を向けることにより、私たちの日常生活において起こりうる様々な民事紛争を予防・解決する方法を分析し、思考する力を身につけることを目指す。
 具体的には、「車で人身事故を起こしてしまったら・・・」、「購入したパソコンが壊れていたら・・・」、「親が離婚したら・・・」、「祖父が亡くなったら・・・」といった様々な場面で起こりうる民事紛争について、どのような予防・解決ができるのかということ进行分析し、思考する。必要に合わせて、判例、学説についても取り上げることとする。

到達目標

- (1) 民法の全体のしくみを理解する。
- (2) 民法の適用領域の広がり、他の法領域とのつながりを理解する。
- (3) 具体的な問題の解決方法を分析・思考することを通して、多角的な視点から検討する力を養う。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	講義内で扱ったテーマの中から、レポート課題を出題します。
上記以外	50%	小テスト2回：30% 出席態度及び意欲：20%

提出物の期限を守らない・授業中の迷惑行為などは、マイナス評価の対象となり得ます。

授業外学習

適宜、復習に努めてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

六法必携（判例六法以外）。教科書については、特に指定しません。詳細は、初回の授業で指示します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジュメは配布します。参考書についても、詳細は初回の授業で指示します。

前提学力等

履修資格

講義名	組織とネットワークの社会学/							担当教員	岩館 豊
講義コード	1401790	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330SOC302, 335SOC309								

授業概要

組織とネットワークは社会を構成するきわめて重要な要素である。たとえば、企業、学校、役所、コンビニなどのフランチャイズ・ネットワーク、インターネットで結びつくリアル/ヴァーチャルなコミュニティ等々を抜きに現代社会を語ることは不可能である。また、社会そのものの存在を実感することは困難でも、組織とネットワークであればその存在を具体的に可視的なものとして認識することはさほど難しくない。したがって、組織とネットワークは、社会というつかみどころのない対象を捉えるための格好の切り口または出発点になりうる。このような問題意識のもとで近代以降の組織とネットワークの特徴を考察することによって、近現代社会の構造と変動を理解するとともに、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につけることがこの授業の目的である。

授業では、官僚制化と脱官僚制化のダイナミズムを軸としながら、組織とネットワークの歴史的変遷を見ていく。概念と理論について説明するだけでなく、関心と理解を深めるために映像や新聞記事などを積極的に活用しながら授業を進める。

到達目標

- (1) 近代以降の組織とネットワークに関する基礎的な知識を得る
- (2) 組織とネットワークの考察を通して、近現代社会の構造と変動に関する理解を深める
- (3) 組織とネットワークの考察を通して、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	最終レポート
上記以外	60	平常点(出席・授業への参加度) 課題(授業内の作業)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは特に指定せず、配布資料をもとに講義を進める。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	権力と支配	M.ウェーバ	講談社	
2	産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する	小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充	有斐閣	
3	ボランティアからひろがる公共空間	関嘉寛	梓出版社	

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』、有斐閣、第4章「組織とネットワーク」。

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・論文（人間関係）							担当教員	学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 / 木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央
講義コード	1401820	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	435HUR402								

授業概要

「人間関係論演習」および「人間関係論演習」での指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題を、所定の様式の論文として完成する。

到達目標

卒業論文を書き上げること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	卒業論文構想発表と卒業論文中間発表の内容、提出された卒業論文の内容、および、口頭試問と卒業論文発表会での状況を総合して合否を評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域運動論/							担当教員	大野 光明
講義コード	1401870	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

現代社会には貧困、環境破壊、戦争、差別などさまざまな問題や矛盾があふれかえっています。社会運動とは、「危ないもの」、「近寄りたくないもの」といったイメージがついてまわりますが、社会運動は現代社会の問題を明確に指摘し、解決し、よりよい社会を構想しつづけてきました。そこでこの授業では、社会運動とは何をなし、何をつくってきたのか、そして、人々はなぜ社会運動に取り組むのか、という視点から、社会運動の歴史と基本的な理論や概念を学ぶこととします。授業では、社会運動にかかわる映像や音楽なども参照しながら、できるかぎり、人々の「生の声」と現場の息吹を感じながら考えることを心がけます。また、「社会運動」というレンズをつうじて、現代社会をこれまでとはちがった視点でとらえることを目指します。

到達目標

(1) 社会運動に関する基本的な理論、概念、歴史を理解できるようになる。
(2) 具体的な社会運動について知り、理解を深めるなかで、現代社会の問題や矛盾について、自らの暮らしにひきつけた形で考えることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	中間と期末にレポートを提出してもらいます。授業をふまえて理論や概念を参照した内容となっているか、論理的であるかどうかなどを評価基準とします。詳細は授業中に示します。
上記以外	50	毎回コメントシートを提出してもらいます。その提出回数と内容を評価対象とします。詳細は授業中に示します。

授業外学習

授業中に配布・参照した資料、新聞記事、映像、音楽などをふりかえり、自分の考えを整理する時間をできるかぎりつくるとよいと思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、授業中に必要な資料を配ります。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会運動の社会学	大畑裕嗣ほか	有斐閣	978-4641280922
2	占領と平和 “戦後” という経験	道場親信	青土社	978-4791761791
3	暴力の哲学	酒井隆史	河出書房新社	978-4309414317

前提学力等

履修資格

講義名	社会運動論							担当教員	大野 光明
講義コード	1401875	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

現代社会には貧困、環境破壊、戦争、差別などさまざまな問題や矛盾があふれかえっています。社会運動とは、「危ないもの」、「近寄りたくないもの」といったイメージがついてまわりますが、社会運動は現代社会の問題を明確に指摘し、解決し、よりよい社会を構想しつづけてきました。そこでこの授業では、社会運動とは何をなし、何をつくってきたのか、そして、人々はなぜ社会運動に取り組むのか、という視点から、社会運動の歴史と基本的な理論や概念を学ぶこととします。授業では、社会運動にかかわる映像や音楽なども参照しながら、できるかぎり、人々の「生の声」と現場の息吹を感じながら考えることを心がけます。また、「社会運動」というレンズをつうじて、現代社会をこれまでとはちがった視点でとらえることを目指します。

到達目標

- (1) 社会運動に関する基本的な理論、概念、歴史を理解できるようになる。
(2) 具体的な社会運動について知り、理解を深めるなかで、現代社会の問題や矛盾について、自らの暮らしにひきつけた形で考えることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	中間と期末にレポートを提出してもらいます。授業をふまえて理論や概念を参照した内容となっているか、論理的であるかどうかなどを評価基準とします。詳細は授業中に示します。
上記以外	50	毎回コメントシートを提出してもらいます。その提出回数と内容を評価対象とします。詳細は授業中に示します。

授業外学習

授業中に配布・参照した資料、新聞記事、映像、音楽などをふりかえり、自分の考えを整理する時間をできるかぎりつくとよいと思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、授業中に必要な資料を配ります。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会運動の社会学	大畑裕嗣ほか	有斐閣	978-4641280922
2	占領と平和 “戦後” という経験	道場親信	青土社	978-4791761791
3	暴力の哲学	酒井隆史	河出書房新社	978-4309414317

前提学力等

履修資格

講義名	哲学概論 A							担当教員	鞍田 崇
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH202, 235LAH301								

授業概要

これからのあるべき社会の姿をデザインするにはどうすればよいか。

この授業ではその道筋を考えていきます。でも、この課題は、じつは、従来通りの哲学だけでは担いきれません。デザインや建築、工芸や農業、コミュニティ再生など、さまざまな分野の連携があつてはじめて可能となるものです。この授業ではそうした関連ジャンルの現在進行形の動きを適宜参照しつつ、来るべき社会に向けての構想力・判断力を培うことをめざします。

ところで、ここでいう「社会」とは、自分たちが生活をいとなむ社会です。「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」を考える上で、何よりも大事なのは、「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。この講義では、何よりもまず、そうした実感を皆さんと共有していきたいと考えています。

でも、なぜか。社会が大きく変わりつつある、いや大きく変えななきゃいけない時代だからです。この講義を機に、特にみなさんにぜひ考えていただきたいことが2点あります。

到達目標

1. 自分の頭で考えるとはどういうことか、その実際を実感すること。
2. 社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。
3. 身近な日常生活の中に本当の創造性のきっかけをつかむこと。
4. 現代社会で問われていることの思想的意味と歴史的背景を理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	学期末の最終レポート課題です。論述力、表現力、着眼点など、総合的に判断します。
レポート課題	35	毎回、小レポート課題を出します。予備知識なしで取り組めるものなので、ちょっとしたエクササイズと思って取り組んでください。
上記以外	15	平常点として、授業への取り組み方など。

授業外学習

参考事例として掲げたものは、適宜自分でも調べるように。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝の「インティマシー」	鞍田崇	明治大学出版会	978-4-906811-13-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝のレッスン	鞍田崇(編)	フィルムアート社	4845911833
2	「生活工芸」の時代	三谷龍二(編)	新潮社	4103365315
3	哲学入門以前	川原栄峰	南窓社	4816500545

前提学力等

哲学概論ですが、狭義の哲学・思想だけが対象ではありません。デザインやアート、建築や工芸、農業や民俗などなど、ひろく柔軟な興味関心をもっていることがのぞましいです。そうじゃない人は、この機会に

履修資格

講義名	統計学基礎							担当教員	細馬 宏通
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203								

授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。

到達目標

- (1) 母集団と標本の概念を身につける。
- (2) 相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。
- (3) 推定と検定の基本手順を習得する。
- (4) 日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70%	全回で扱った統計学的知識が正しく理解できているかを問う。
レポート課題		
上記以外	30%	小テスト（随時）：各回で扱った統計学的知識を理解しているかを問う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	栄養科学シリーズ基礎統計学	鈴木良雄 廣津信義	講談社サイエンティフィック	978-4-06-155348-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本社会論							担当教員	武田 俊輔
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC101-C, 235SOC303-C								

授業概要

同じ「日本社会」の中で暮らしつつも、その社会のメンバーシップからはじき出されてきた様々な人々の姿を通して、戦前・戦後の「日本社会」の姿を再検討することにある。労働市場からも教育からも福祉からも排除されていく人々の視点から「日本社会」はどう映るのか。またそうした人々を改めて社会に包摂した形で社会的な連帯を創り出すことの可能性を論じる。

到達目標

(1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、そのメカニズムを理解することができる。
(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について、の2点についての理解度に基づき、評価を行う。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて、加点する場合があります(最大5点)。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ナショナリズム論・入門	大澤真幸・姜尚中(編著)	有斐閣	4641123357
2				
3				

毎回、レジュメを配布する。

前提学力等

近現代の日本史について、高校教科書程度の知識があることが望ましい(必須ではない)。

履修資格

講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 / 木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1402460	単位数	2	開講期	通年	授業種別			演習
ナンバリング番号	335HUR301								

授業概要

各教員ごとに分かれて、人間関係論のそれぞれの分野に関する既存の成果を概観するとともに、卒業研究のテーマの探求に向けての論文講読、準備、予備的な作業等を行う。

授業履修にあたっては、4月中旬におこなわれる卒業論文の構想発表、10月下旬におこなわれる中間発表、翌年2月下旬に行われる卒業論文発表会への参加を強く推奨する。

到達目標

卒業論文のテーマを決める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポートを総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 / 木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1402470	単位数	2	開講期	通年	授業種別			演習
ナンバリング番号	435HUR401								

授業概要

「人間関係論」のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な資料を収集し、分析する。

到達目標

卒業論文を書き上げること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間関係論基礎演習						担当教員	学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 / 木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1402481	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	135HUR101								

授業概要

人間関係論への心理学・社会学・教育学のアプローチの基礎を学ぶ。各領域について、その内容と広がり、方法論の基礎を、講義、関連する入門書や基本文献の輪読、初歩的な実験やフィールドワーク、ディスカッション、ディベートなどを通じて学び、人間関係論への関心と理解を深める。

到達目標

人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各アプローチの基本的な視角・方法・知識を習得し、あわせて人間関係研究に必要なアカデミックスキルの基礎を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	45	最終レポート
上記以外	55	各教員が指示するリアクションペーパーおよび小レポート

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間形成論/							担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1402500	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

現代社会には、貧困や格差、環境破壊や人権侵害など、世界中の国々や人々が協力しなければ解決することが難しい多くの問題（「地球的諸問題」と呼ばれる）が存在している。こうした状況を背景として、地球的諸問題の解決に向けて自ら考え、判断し、行動することのできる市民を育成することが、学校内外の教育活動において取り組むべき重要な課題の1つとなっている。本講義では、こうした課題に取り組む教育活動の1つである「持続可能な開発のための教育（ESD）」に焦点をあてて、ESDを実践するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをめざす。

到達目標

- (1) ESDの概要と実践上の要点を説明することができるようになること。
- (2) ESDに関する多様な議論や実践事例を知るとともに、それらについての自分なりの考えを持ち、表現することができるようになること。
- (3) ESDの実践に対する自分なりのイメージを具体化することができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	まとめのレポート
上記以外	70	講義中に提出するワークシートなど

まとめのレポートの提出がない場合には、単位認定は行わない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 - 開発教育研究の継承と新たな展開	木村裕	東信堂	4798912204
2				
3				

その他の参考書等については、適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間形成論B							担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1402502	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本授業では、子どもの人権をめぐる現代的課題について、教育法規ならびに判例等をふまえながら具体的事例を検討することを通じて、子どもの権利と人権についての理解を深めることを目指す。

到達目標

歴史的視点ならびに事実をふまえて現実の教育課題を理解することができる。
 子どもの権利および人権について正しく認識し、人権尊重の観点から考察することができる。
 関連文献および資料を収集して内容を系統的に把握し、論点を整理することができる。
 講義内容や議論を通じて、自らの視点や考えを説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート
上記以外	50	感想、授業中の作業課題、議論への参加

最終レポートと感想、授業中の作業課題、議論への参加などの取り組みをもとに総合的に判断する。
 なお、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

本授業で取り上げるテーマに関するニュースや新聞、論説などを収集すること。
 また、自身の中・高校時代の校則、制服の有無と価格等について調べる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書・参考資料については、授業中に適宜紹介する。

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	人間行動論							担当教員	細馬 宏通
講義コード	1402530	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	134NUT212, 135PSY202								

授業概要

アニメーション史の中で、「口」という器官は音声と映像とを結びつけるための重要な役割を担ってきた。口を開閉して話すこと、歌うこと、口に食物を入れ、咀嚼とともに顔を動かすこと。これらの基本的な活動が、映像の歴史の中でいかに扱われてきたかを明らかにし、わたしたちの「口」のあり方を見直すとともに、人の身体が口を中心としていかに複合的な活動を行うかを考える。

到達目標

- (1) 口が映像文化の中で担ってきた役割を理解する（知識・理解）。
- (2) 食べる・話す・歌うという行動が身体全体で調整される活動であることを理解する（知識・理解）。
- (3) 自ら映像を収集し、そこで表現されている口と身体を比較しながら自分の力で批評できる（興味・関心/思考）。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	中間レポート(50%)、期末レポート(50%)
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか	細馬宏通	新潮社	
2				
3				

前提学力等

とくになし

履修資格

講義名	人間文化論 A							担当教員	細馬 宏通 / 奥村 万寿美 / 塚本 礼仁 / 藤木 庸介 / Borjigin Burensain
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD102, 134NUT102, 135LAH2011, 37BAC102								

授業概要

人間文化学部は、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科の5学科から成っている。しかしそれぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではない。では、それぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのだろうか、それを考える手がかりとして、この講義では異なる学科に属する10組の教員どうしの対談と、各学科の教員による5つのレクチャーが行われる。これから4年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からそのことを考えるヒントをつかんでほしい。

到達目標

- (1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。
- (2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。
- (3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート課題(学生による学科間ディスカッションによるもの)
上記以外	50	各対談時のリスポンスペーパー

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論B						担当教員	小熊 猛 / 京樂 真帆子 / 塚本 礼仁 / 濱崎 一志 / Martin Hawkes / 横田 祥子	
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103								

授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」
文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。
本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	ミニレポートもしくは小テストに対する採点
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

その都度、紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論 C							担当教員	宮本 雅子 / 奥村 万寿美 / 中村 好孝 / 松嶋 秀明 / 横田 尚美
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203								

授業概要

人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題について考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。
この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点をとりあげながら、健康を維持・増進するための食生活について5回講義する(奥村)。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになるとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。

到達目標

(宮本・横田) (1) 住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2) 自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。
(奥村) 現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を踏まえ、健康を維持・増進するための食生活について理解することができる。
(松嶋・中村) (1) 家族をみるための視点を身につけることができる。(2) 現代的な社会問題を家族との関連で理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	(宮本・横田) 到達目標の(1) 住宅の中の暮らしとその変化について理解すること、(2) 自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる、については、課題レポート(33% : (1) 19%、(2) 14%)

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	認知心理学							担当教員	上野 有理 / 杉本 匡史
講義コード	1402570	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

私たち人間は、実に複雑な行動をする。授業では、人間のさまざまな行動や心の働きを科学的に読み解く視点を紹介する。実際の人間の行動や、他の動物の行動を例にあげ、行動や心の働くしくみについて理解を深めることを目指す。

到達目標

- (1) 情報処理システムとして人間を理解する視点を身につける。
- (2) 認知心理学の基礎知識と研究手法を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	定期試験にて、(1)を30%、(2)を30%評価する。
レポート課題	40	レポート課題(レスポンスペーパーを含む)にて、(1)を40%評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義において適宜提示または配布する

前提学力等

履修資格

講義名	発達支援論（人間関係）							担当教員	水野 友有
講義コード	1402609	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

発達支援のための基礎理論を講じたのち、対象理解の具体的な方法としての発達診断や発達支援の技術について、さまざまな現場の実践例を踏まえて概説するとともに、人間発達を支える社会制度のあり方を考える。

到達目標

出生から続く生涯発達の過程において、主体の発達を援助する理念、方法や技術、制度がどのように共有されてきたを理解し、今後のあり方を構想することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	中間・期末試験およびレポートの提出
上記以外	60%	授業内で毎回配布されるワークシートの提出

授業内で毎回配布されるワークシートの提出（60%）、中間・期末試験およびレポート（40%）によって総合的に評価する。

授業外学習

発達心理学I、IIなど、これまでに人間の発達に関する授業内容の理解を確認しておくこと。また、毎回配布されるワークシートの予習課題に取り組むこと、また、授業後は復習課題に取り組み、ワークシートを完成させること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	文化社会学							担当教員	武田 俊輔
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C201, 235S0C304								

授業概要

本講義は、近現代の日本における観光や開発、地域おこしと呼ばれる現象が、地域社会とそこに住む人々に対してどのような影響を与えるのかについて、地域社会における「伝統的」とされる芸能や祭りの変化、そしてその担い手である地域住民の暮らしの変化を切り口として、考えていく視点を手に入れてもらうことをねらいとしている。祭り・芸能を手がかりとした講義だが、それらへの美学的関心というより、地域社会における政治的・経済的な状況、観光や地域振興と地域文化とを結びつけて考えていくことに対する関心を持つ人向けの講義である。

到達目標

- (1) 「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できるようになる。
- (2) 「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る。
- (3) 「伝統」文化の創造と再編成の中で、人々がどのような影響を受け、またそうした状況をどのように活用しているのかについて考察できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1) 「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できる(30%)。 (2) 「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る(30%)。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて加点する場合がある(5点以内)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ふるさと資源化と民俗学	岩本通弥編著	吉川弘文館	4642081909
2	長浜曳山祭の過去と現在	市川秀之・武田俊輔(編著)	おうみ学術出版会	4883256154
3				

授業中にレジュメを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	マーケティング論							担当教員	山田 歩
講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133MKD181,335LAH307								

授業概要

どんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんな場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるように、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

到達目標

企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	マーケティングの考え方を理解できたか
レポート課題	50	宣伝会議賞(25) 授業課題(25)
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	1からのマーケティング 第3版	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	量的データ解析論							担当教員	丸山 真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C206, 235S0C204								

授業概要

この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。あわせて統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計学に関する理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。

到達目標

- (1) 社会統計のデータを整理・分析する基礎知識（記述統計と推測統計の基礎）を習得する。
- (2) 統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成するレポート課題を課す。
上記以外	70	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成する小課題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会統計学	ポーンシュテット・ノーキ	ハーベスト社	
2	社会統計学ベーシック	片瀬一男ほか	ミネルヴァ書房	
3	SPSSによる多変量解析	村瀬洋一ほか編	オーム社	

参考書は授業の中で指示する。

前提学力等

社会調査論、統計学基礎が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

履修資格

講義名	量的データ解析論							担当教員	岡本 裕介
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C207,335S0C311								

授業概要

人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げる。

到達目標

- (1)各手法の基本的な考え方を身に着けること(これが主たる目的)。
- (2)計算の概要、統計パッケージの出力の見方を理解し、各手法の誤用を避けられるようになること。
- (3)研究事例や歴史を紐解いて、具体的な問題意識との関連を考えられるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	演習問題を解いて提出する。多変量解析の場合、分析者の裁量の余地があるので、正解は1つではないが、基本的な注意事項をふまえて解答しているかどうかを評価基準とする。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布する。講義中に随時推薦する。

前提学力等

統計学基礎、量的データ解析論 が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

履修資格

講義名	臨床心理学							担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1403190	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335PSY307								

授業概要

臨床心理学とは、心理学的知見をもとにして対人援助実践をおこないつつ、同時に、その過程をよりよいものにするために研究をおこなっていくものである。この授業では、種々の精神障害や、発達障害などについての知識や、現代において主流となっているいくつかの治療理論・技法についての知見を概観しつつ、心理学的に人を援助するとはどのようなことなのか論じる。実際の授業では、講師から受講生への一方的なレクチャーにとどまらず、仮想的な事例や、映像教材をもとにした受講者同士のディスカッションやワークを多くとり入れる。そのことによって、知的に理解にとどまらず、実感をともなって心理学的に人を援助することを考えられるようにする。受講生諸君の積極的な参加を期待している。

到達目標

臨床心理学における基礎的用語を理解し、用いることができる。
臨床心理学的対人援助についての自分なりの方針をたてることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	普通の授業における発表、レフレクションシートへの記入(50%)、最終レポート(50%)について総合的に判断して評価する。

授業外学習

5 - 6回のビデオや教材を用いた自主学習の結果をまとめたレポート。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

履修資格

講義名	地域社会論							担当教員	丸山 真央
講義コード	1403250	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この講義では、地域社会学の基本的な視点、基礎概念、主要な理論を概説するとともに、地域社会をめぐる近年の動向や課題を学ぶ。地域社会学は、村落と都市をそれぞれ対象にしてきた社会学が、両者を統合的に捉えることをめざして成立した社会学の一分野であり、地域生活や地域問題に対して社会学の視点や方法によってアプローチするものである。講義では、受講者数次第ではあるが、ディスカッション、ディベート、グループワークを積極的に採り入れて講義内容への理解を促すこととしたい。

到達目標

- (1) 地域社会学の基本的な考え方、主要な概念・理論を理解する。
- (2) 地域生活や地域問題の主要な今日のトピックスを理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	授業中と宿題で複数回課す小レポート課題(配点100点満点中70点)は、到達目標(1)を満たしていること(うち配点30点)と到達目標(2)を満たしていること(うち配点40点)によって評価する。 最終レポート課題(配点100点満点中30点)は、到達目標(1)を満たしていること(うち配点15点)と到達目標
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業で教科書は使用せず、レジュメと資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新版キーワード地域社会学	地域社会学会編	ハーベスト社	
2	地域社会学講座 1～3		東信堂	
3	地域の社会学	森岡編	有斐閣	

参考書や参考となる映像資料等は、授業のなかで随時紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	教育課程論							担当教員	木村 裕
講義コード	1600251	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA204, 335EDU305								

授業概要

教育課程の意義、歴史的展開、構造、編成方法、評価と改善のあり方、カリキュラム・マネジメントの意義などについて、文献や映像資料などを用いながら講義する。講義を通して、教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

到達目標

教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	道徳教育論							担当教員	福井 雅英
講義コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA205, 335EDU306								

授業概要

わが国の道徳教育実践の歴史を振り返りながら、そこで深められた理論的、実践的な問題を究明する。およその概要としては、(1)戦前日本の道徳教育、戦後初期の道徳教育民主化の動向、憲法・教育基本法下の道徳教育のありかたについて知る。、(2)道徳・道徳性の概念と道徳性の発達について考える。(3)道徳の授業実践について考え、道徳の教科書と授業のあり方、道徳の評価について理解する。

到達目標

- (1) 我が国における道徳教育の歴史について理解する。
- (2) 道徳教育の目標・方法について理解する。
- (3) 道徳の指導計画や指導案を作成する。
- (4) 道徳の指導力量を形成し、評価のあり方がわかる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		毎回の授業感想レポートとまとめレポートを総合して評価する。

5回以上欠席したら評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

吉田一郎他：『子どもと学ぶ道徳教育』、その他講義中に適宜指示する。

前提学力等

履修資格

